

トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

1:10 SCALE

全長 417mm

12



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

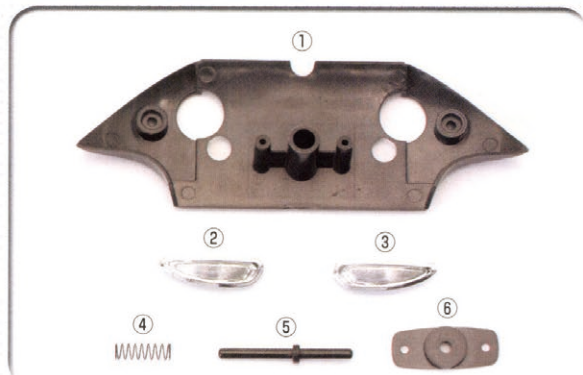
DeAgostini
COLLECTIBLES

60号

ルーフクッションへのAピラー取り付けと、メインシャシーにボディを搭載するための事前確認を行う

今号では、59号で提供したルーフクッションに左右Aピラーなどを取り付ける。また、シャシーへのボディ搭載が間近になったので、これまでに組み立てた各パーツのフィッティングを確認しておく。

今号のパーツ



- ①フロントアンダープレートインナー×1
- ②右フロントウインカー×1
- ③左フロントウインカー×1
- ④コイルスプリング×1
- ⑤ヘッドライトリフトバー×1
- ⑥ヘッドライトリフトバーベース×1

※今号で提供したパーツは使用しないので、中身を確認して保管しておこう。

使用する道具

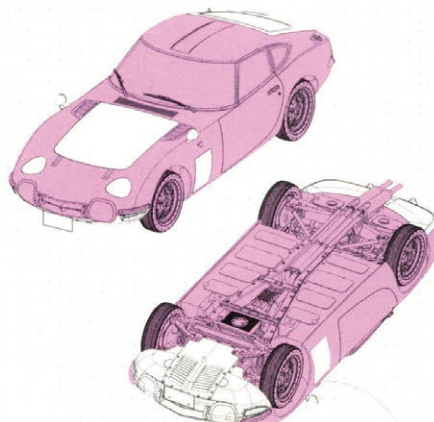
・ロングタイプドライバー
(9号で提供したもの)

あると便利な道具

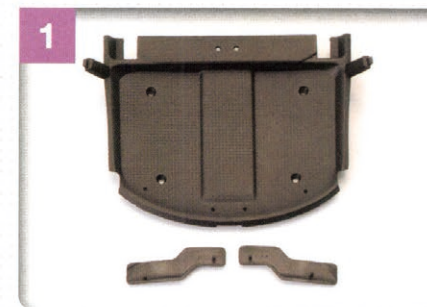
・ホビー用ダイヤモンドヤスリ
・カッターナイフ
・マスキングテープ

用意するもの

・バッテリー(16号で組み立てたもの)
・エンジンコンパートメント(24号で組み立てたもの)
・キャビンフロア(34号で組み立てたもの)
・ダッシュボード(51号で組み立てたもの)
・シャシーフレーム(52号で組み立てたもの)
・右Aピラークッション(59号で提供したもの)
・右サンバイザー(59号で提供したもの)
・左サンバイザー(59号で提供したもの)
・左Aピラークッション(59号で提供したもの)
・ルーフクッション(59号で提供したもの)
・ルームランプ(59号で提供したもの)
・ボディ(59号で組み立てたもの)
・柔らかい布(タオルなど)



今号で
作業する箇所

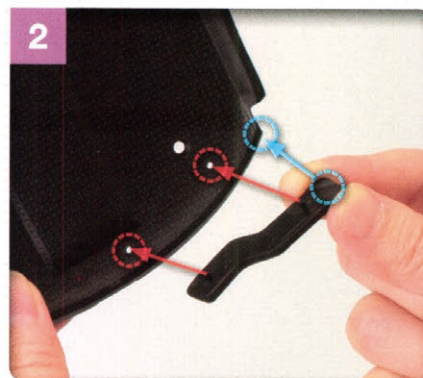


【左サンバイザー】
小さな点が1個ある。
【右サンバイザー】
小さな点が2個ある。

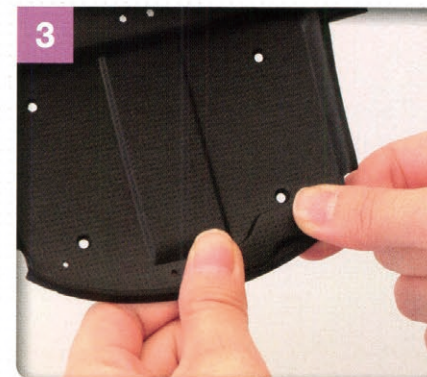


この部分がくぼんでいる。

59号で提供したルーフクッション、右サンバイザー、左サンバイザーを用意し、取り付ける向きを確認する。左右のサンバイザー裏面には、写真で示した位置に小さな丸い点が刻印されており、刻印が1個は左用、2個は右用だ。また、端に設けられたくぼみは、ルーフクッションの前縁部分と重なるようになっている。



右サンバイザーを写真で示したルーフクッションの取り付け穴にセットする。サンバイザー端に設けられたくぼみの位置が、ルーフクッション前縁に重なるはずだ。



サンバイザーから突き出した2本のピンをルーフクッションの取り付け穴に差し込み、真っすぐに押し込んで固定する。



4 左サンバイザーを用意し、2と同じ要領でルーフクッションの取り付け位置にセットする。



5 サンバイザーから突き出した2本のピンをルーフクッションの取り付け穴に差し込み、真っすぐに押し込んで固定する。



6 59号で提供したルームランプを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。



7 ルームランプの裏面から突き出した2本のピンを、ルーフクッション後方の取り付け穴に差し込む。



8 ルームランプを真っすぐに押し込み、ルーフクッションに固定する。



9 次に、59号で提供した左右のAピラークッションを用意し、8で組み立てたルーフクッションと一緒に並べて、取り付ける向きを確認する。



10 ルーフクッションの裏側には、前縁の左右に2つの取り付けポストがあり、それをAピラークッション端の取り付け穴にはめ込む。左Aピラークッションを用意し、写真のようにルーフクッション前縁にセットする。



11 Aピラークッションの端に設けられた取り付け穴に、ルーフクッション前縁のポストをはめ込む。固定はボディ裏面への取り付け時に行うので、現時点では仮組みとなる。



12 右Aピラークッションを用意し、写真のようにルーフクッション前縁にセットする。



13 12と同じ要領で、ルーフクッション前縁のポストへAピラークッション端の取り付け穴をはめ込む。こちらも左と同じく仮組みとなる。

今号の完成



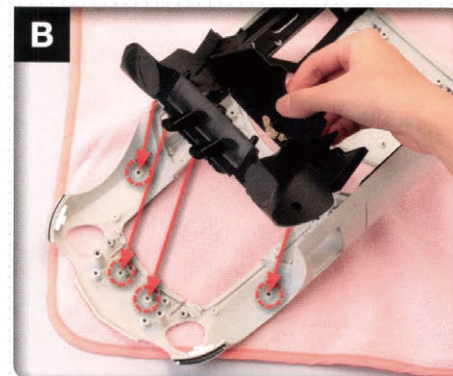
これでルーフクッションへの左右Aピラークッションの取り付けが完了した。なお、組み立てたルーフクッションは、この後の確認手順で使用するので、仮組みしたAピラークッションが外れないよう、写真の状態を保管しておこう。もしもAピラークッションが簡単に抜け落ちてしまう場合は、マスキングテープを使って仮留めしておこう。

ボディをシャシーフレームに
搭載するための確認作業

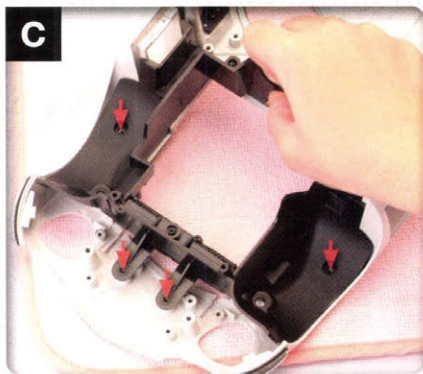
モデルも完成に近付き、ボディをシャシーフレームに搭載する作業も間近に迫ってきた。ここからは、組み立てたシャシーフレームやほかのパーツをボディと組み合わせ、各部のフィットリングを確認する手順を紹介する。この確認作業で不具合が見つかった場合は、カッターナイフやホビー用ダイヤモンドヤスリを使って、干渉部分をあらかじめ切削しておこう。なお、ボディの状態には製造上の過程で個体差が生じてしまうため、加工の程度や部位も個々に異なることをあらかじめお断りしておく。



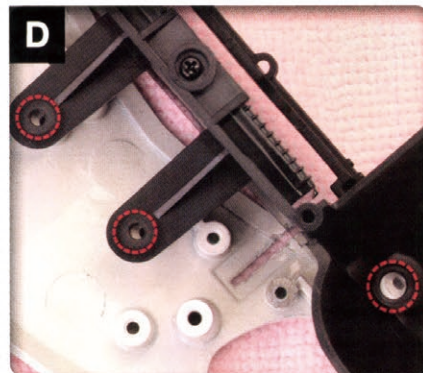
ボディの塗装面に傷を付けないようにするため、平らな台の上にタオルを敷き、59号で組み立てたボディを“裏返し”の状態で置く。24号で組み立てたエンジンコンパートメント、34号で組み立てたキャビンフロアも用意しよう。なお、キャビンフロアの後部に載せたスペアタイヤとリヤコンパートメントカバーは、事前に取り出しておこう。



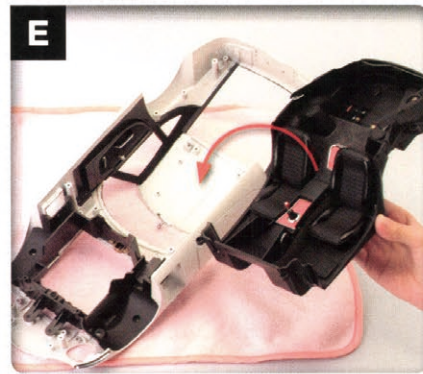
エンジンコンパートメントを裏返しにして、ボディのフロント部分内側へ慎重にはめ込んでみる。



エンジンコンパートメントをボディ内側にはめ込んだ状態。写真で示したビス穴の状態をチェックし、ボディ側のビス穴と重なっているか確認しよう。



写真のように、ビス穴の位置が大ききずれている場合は、ボディとエンジンコンパートメントのはめ込み部分に“ズレ”が生じている。慎重に位置を確認しながら、もう一度**B**、**C** はめ込み作業をやり直す必要がある。



次にキャビンフロアを用意し、ボディ内側へ“裏返し”にはめ込む。



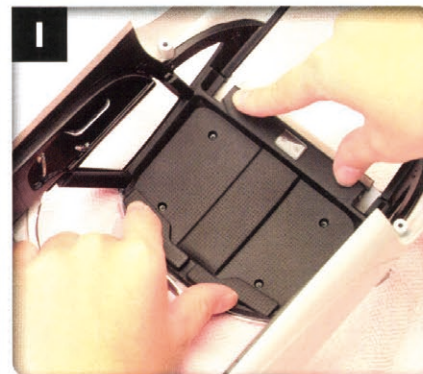
キャビンフロアをボディ内側にはめ込んでいるところ。ボディとパーツとの接合部はかみ合うようになっているので、慎重に位置を探りながらはめ込もう。



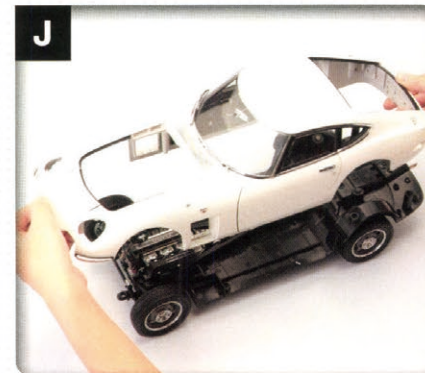
作例のモデルでは、左のリヤタイヤハウス後方の取り付け穴がわずかにずれていた。この程度のズレであれば、組み立ての支障にはならないが、気になる場合はホビー用ダイヤモンドヤスリの先端を使い、キャビンフロア側のビス穴を少しだけ削ってもいいだろう。パーツの取り付け位置と状態を確認したら、はめ込んだエンジンコンパートメントとキャビンフロアは取り外して保管しておく。



今号で組み立てたルーフクッションを用意し、ボディ内側のルーフ部分にはめ込んでみる。左右のAピラークッションは仮留め状態なので、作業中の脱落に注意しよう。



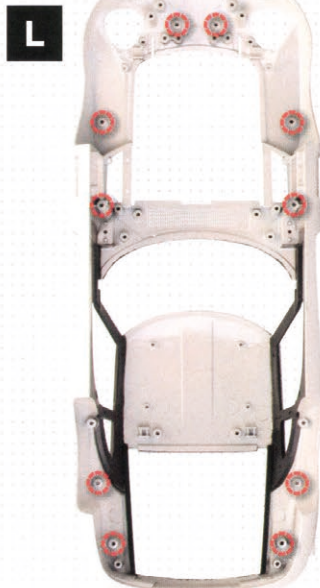
ボディのルーフ部裏側には、ルーフクッションを固定するためのビス穴が設けられている。そこにルーフクッションのビス穴を合わせてはめ込む。左右のAピラークッション、および後部のCピラークッションがボディに密着しないが、これらはキャビンフロアと組み合わせることによって密着する構造なので、心配はない。パーツの取り付け状態を確認したら、ルーフクッションを取り外して保管しておこう。



いよいよシャシーフレームにボディを搭載し、取り付け状態の確認を行う。52号で組み立てたシャシーフレームを用意し、真上からボディをゆっくりとかぶせていこう。



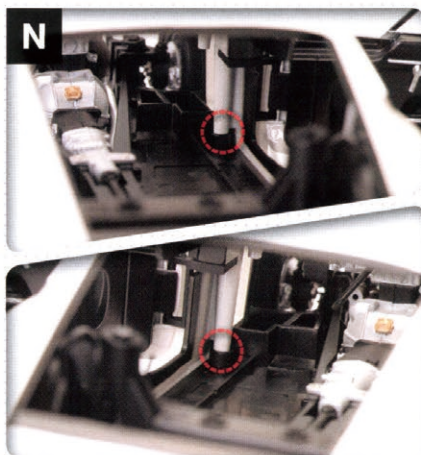
ボディは一気にかぶせるのではなく、前後左右の位置関係を確認しつつ、慎重に下ろしていく。前後タイヤの位置を目安にするといい。



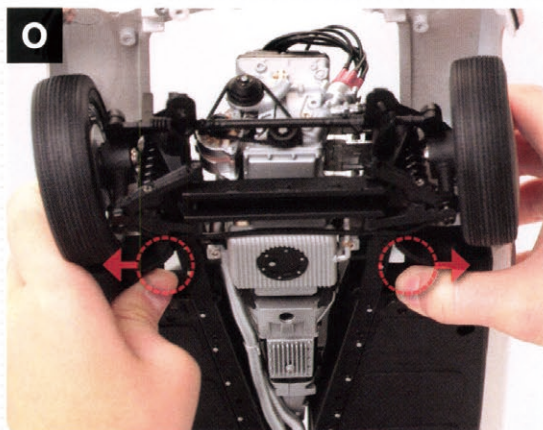
ボディ内側の特に重要な取り付け部を写真に示しておいた。これらの取り付け部は、シャシーフレームに直接、もしくは間に他のパーツを挟み込んで取り付けられる。後の組み立て作業をスムーズに行うためにも、入念にチェックしておこう。



写真で示したボディ後部の取り付け位置を確認する。この部分には、キャビンフロア後方の取り付け部が挟み込まれるので、少し浮き上がった状態になるが、問題はない。なお、写真では右側のみだが、左側も同じ位置に取り付けポストがあるので、忘れずに確認しておこう。



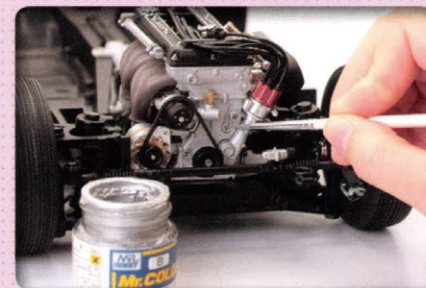
左右ドアのヒンジ部付近に設けられた取り付けポストは、シャシーパネルの取り付け部にはめ込まれる。実際の作業時には、組み込まれたキャビンフロアによって視認が不可能となるので、今のうちに構造と位置関係を把握しておこう。



❶の取り付け部がうまくはめ込めない場合は、写真のようにシャシーパネル左右の開閉口に指をかけ、左右に軽く引っ張りながらはめ込むといい。ボディ搭載の確認作業が終わったら、ボディとシャシーフレームは取り外した状態で保管しておこう。

ウェザリングでリアル感を高める

シャシーフレームに搭載したエンジンのリアル感を高めるには、「ウェザリング」という塗装を施す。“汚し塗装”とも呼ばれ、パーツの彫刻部分やくぼんだ部位に薄めた塗料を流し込み、明暗の差をハッキリとさせる技法だ。



エンジンの外観に見えるビスのアタマ部分は、シルバーで塗装すると目立たなくなる。



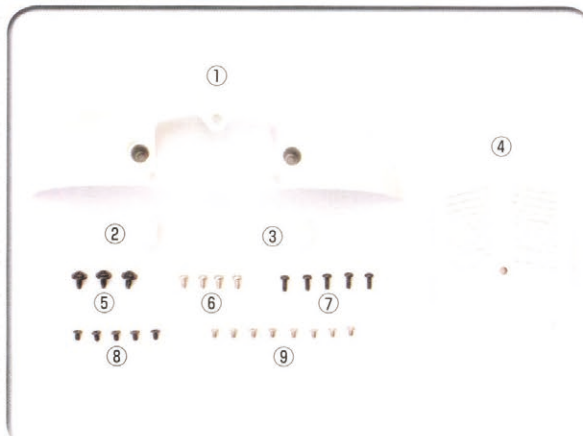
エンジン上部はモデル完成後も見える部分なので、リアル感を高めておきたいところ。水性ホビーカラーの「つや消しブラック」を水で薄め、細目の筆を使ってパーツの彫刻部分に流し込む。その後、すぐに洗った筆でパーツ表面を軽く拭き取れば、彫刻の溝やくぼみだけに塗料が残り、パーツの形状をハッキリさせ、質感も高められる。

61号

サービスリッドとバックドア、 ルーフクッションを ボディに取り付ける

今号では、これまでに仮組みしていた「サービスリッド」「バックドア」「ルーフクッション」をボディに取り付ける。バックドア以外は“仮組みの状態”で保管しているパーツなので、取り付け作業を行う前に各パーツの状態を確認し、欠落などのトラブルがないことを確かめてから作業に取りかかろう。

今号のパーツ



- ①フロントアンダーカウル×1
- ②右ビス穴カバー×1
- ③左ビス穴カバー×1
- ④フロントアンダーカウルプレート×1
- ⑤ビス(KKタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑥ビス(Eタイプ)×4(※1本は予備)
- ⑦ビス(Hタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑧ビス(LLタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑨ビス(JJタイプ)×8(※1本は予備)

※①～④、⑥、⑦は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

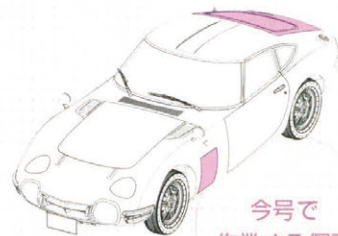
・プラスドライバー(1番)

あると便利な道具

・多用途接着剤
(セメダイン「スーパー-X-G」を推奨)
・ホビー用ダイヤモンドヤスリ

用意するもの

・バックドア(50号で組み立てたもの)
・サービスリッド×2(56号で仮組みしたもの)
・バックドアヒンジカバー(59号で提供し、保管しておいたもの)
・ルーフクッション(60号で仮組みしたもの)
・ボディ(60号で組み立てたもの)
・柔らかい布(タオルなど)



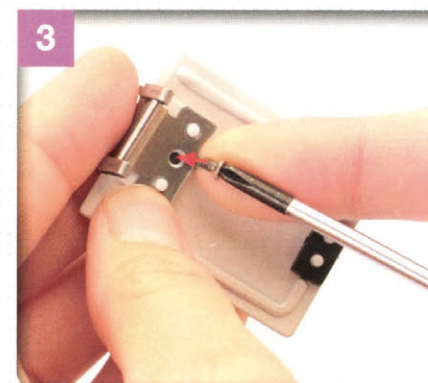
今号で
作業する箇所



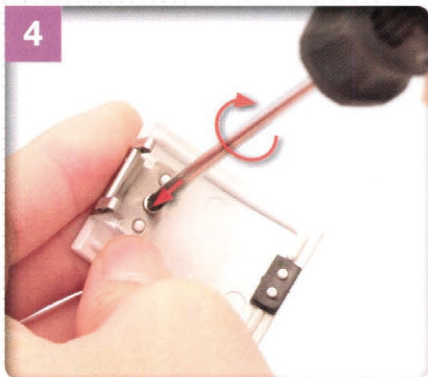
56号で仮組みした左右のサービスリッドを用意しよう。サービスリッドに左右の違いはないので、左右を気にすることなく取り付けられる。



サービスリッドヒンジを仮留めしているマスキングテープをゆっくりと剥がす。サービスリッドヒンジが外れてしまった場合は、本誌56号の組み立てガイド(10ページ2、3)を参照し、向きを間違えないようはめ込んでおく。



⑨ビス(JJタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。サービスリッドヒンジが抜け落ちないように、しっかりと押さえて作業しよう。

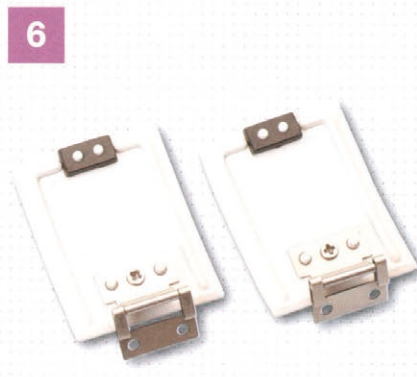


4
1番のプラスドライバーを使い、JJタイプのビスをねじ込む。



5
ガタつかないことを確認する。

サービスリッドヒンジの“ビスで固定した側のプレート”がガタついていないことを確認する。



6
サービスリッドヒンジの固定が完了した状態。③～⑤と同じ要領で、左右の2個を用意する。



7
タオルなどの柔らかい布を敷いた上にボディを横にして置き、写真で示したサービスリッド取り付けスロットに、サービスリッドヒンジを開いた状態にしてセットする。



8
取り付けスロットに対し、サービスリッドヒンジを真っすぐに差し込む。



9
ボディを裏返し、サービスリッドヒンジの取り付け部を確認。固定用のビス穴が重なっていることを確かめよう。



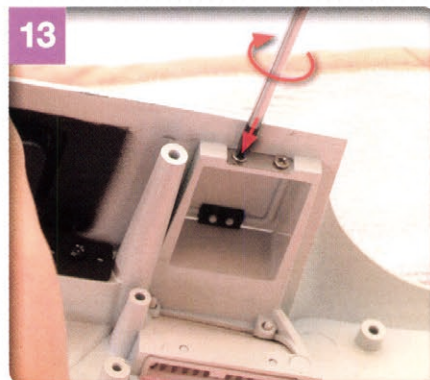
10
サービスリッドを閉じ、ボディとの段差が生じない状態に位置を合わせる。あくまでも目安なので、ボディとサービスリッドの表面が大きくズレていなければ問題はない。



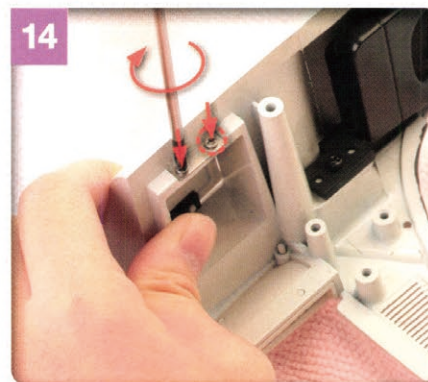
11
⑨ビス(JJタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。



12 1番のプラスドライバーを使い、JJタイプのビスを軽くねじ込む。



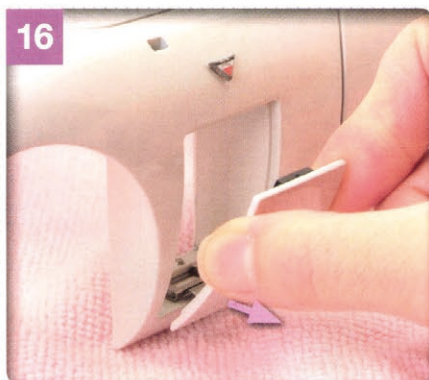
13 もう片方のビス穴にもJJタイプのビスをセットして軽くねじ込む。2本のビスを軽くねじ込んだら、それぞれ交互に少しずつねじ込み、サービスリッドヒンジをボディに固定する。



14 7～13と同じ要領で、ボディの反対側にもサービスリッドを取り付ける。



15 サービスリッドの取り付けが完了したら、開閉状態の確認を行う。まず、サービスリッドの上部を写真のように開く。



16 15の状態のまま、サービスリッドを引き出す。



17 サービスリッドをさらに大きく開いて全開状態にする。写真のように開けばOKだ。左右とも同じように開くことを確認しておこう。



18 50号で組み立てたバックドアを用意する。バックドアウインドウが簡単に外れてしまう場合はいったん取り外し、取り付け部の縁部分に多用途接着剤を少量塗布してから再度取り付けておこう。



19 タオルなどを敷いた上にボディを置き、バックドアを斜めにして、先端の取り付けヒンジ部分の片側をボディにもぐり込ませる。



もう片側のヒンジ部もボディにもぐり込ませる。



両方のヒンジ部をボディにもぐり込ませたら、ルーフ裏側の後端に設けられた取り付け部にセットする。この状態では取り付け部を見ることはできないが、バックドアを軽く引き上げる感じで動かすと、ヒンジ部が“はまる場所”を容易に探り当てられる。



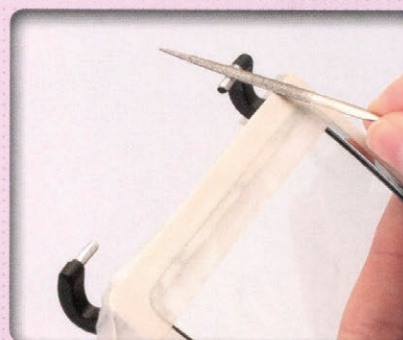
バックドアを閉じ、ボディ表面とのつながり具合を確認する。写真のように平らな状態になっていればOKだ。

バックドアが閉じない場合の対処

バックドアを閉じたときに後端が浮き上がった状態になってしまう場合は、ホビー用ダイヤモンドヤスリを使って小加工を施す必要がある。これは58号で紹介した「リトラクタブルリンクバー」の調整と同じで、“塗装被膜の厚みの違いによる個体差”が原因だ。写真で示した部分を削ることで対処可能なので、バックドアがピッタリと閉じるようになるまで調整しよう。



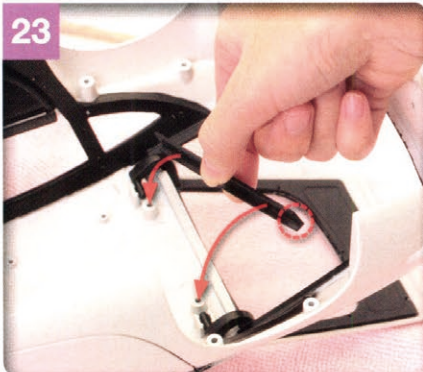
バックドアを閉じたところ、写真のように段差が生じてしまった。この場合は以下の手順で加工、調整しよう。



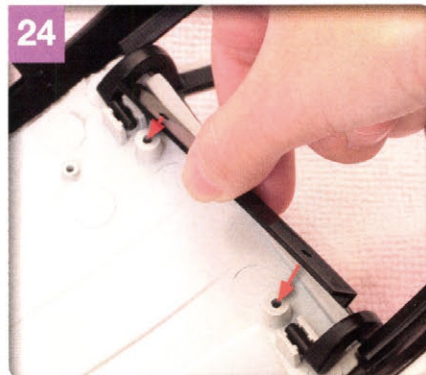
ホビー用ダイヤモンドヤスリを使い、バックドアのヒンジ部分を削る。⑩～⑫のように、試しにボディに取り付けたりして、ピッタリと閉じるようになるまで少しずつ削って調整しよう。



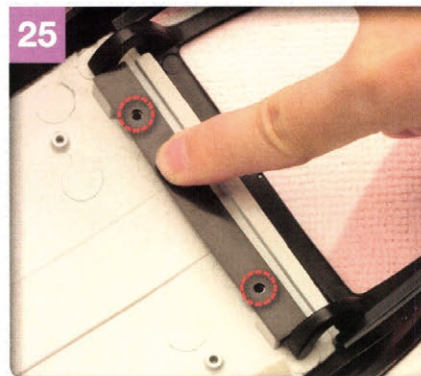
ホビー用ダイヤモンドヤスリで削るのは、写真で示した部分だ。パーツ（ボディ、およびバックドア）の状態に合わせて、ヒンジ部の片側、もしくは左右両側を加工調整しよう。



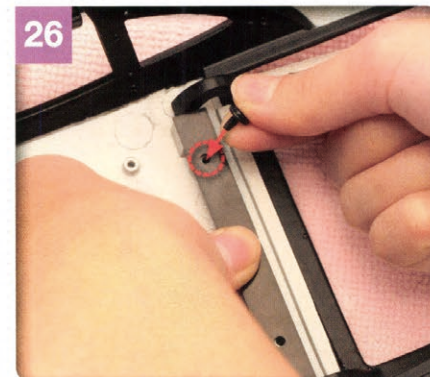
バックドアをボディにセットしたら、その状態のままボディを裏返しにして置く。次に59号で提供したバックドアヒンジカバーを用意し、写真の位置にセットする。このとき、バックドアヒンジカバーの向きに注意しよう。L形に折れ曲がっている側がリヤ側になる。



バックドアのヒンジがはめ込まれている部分にかぶせる感じでヒンジカバーを載せる。ヒンジが浮き上がっている場合は、上から軽く押し込んでおこう。



バックドアヒンジカバーのビス穴と、ボディ側のビス穴位置を合わせる。



⑤ビス(KKタイプ)を用意し、ヒンジカバーを押さえた状態で写真のビス穴にセットする。



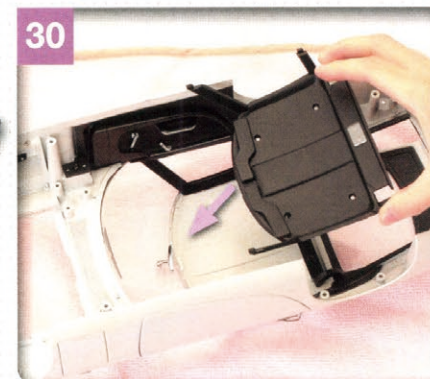
1番のプラスドライバーを使い、KKタイプのビスをねじ込む。ヒンジカバーがガタつかなくなればOKだ。



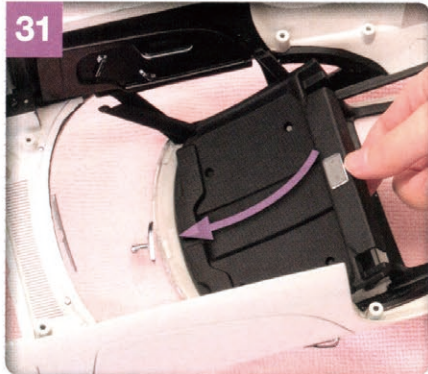
もう片側のビス穴にもKKタイプのビスをセットし、ドライバーでねじ込んでヒンジカバーを固定する。



60号で仮組みしたルーフクッションを用意する。左右のAピラークッションは仮組み状態なので、抜け落ちていないことを確認してから作業に取りかかろう。また、Aピラークッションをマスキングテープで仮留めしている場合は、マスキングテープを剥がしておこう。



ボディを裏返しに置いた状態のまま、その内側ヘルーフクッションを“裏返し”にしてセットする。左右のAピラークッションは外れやすいので注意しよう。



31

左右のAピラークッション部分をボディ内側のルーフ部分に沿わせるように差し入れる。続いて、ルーフクッション後部を落とし込んでいく。



32

ルーフクッションのビス穴と、ボディ内側のビス穴を重ねてはめ込む。



33

⑧ビス(LLタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットし、1番のプラスドライバーを使ってビスを軽くねじ込む。



34

続いて、写真で示したビス穴にもLLタイプのビスを軽くねじ込む。



35

軽くねじ込んだ4本のLLタイプのビスを、写真で示した順番に少しずつさらにねじ込み、ルーフクッションをボディ内側に固定する。



36

ボディを表に返して置き、バックドアの開閉状態を確認する。スムーズに開閉し、なおかつボディ表面とバックドア表面がフラットな状態になっていればOKだ。

今号の完成



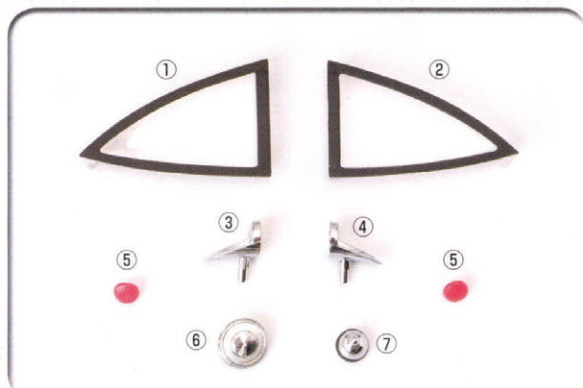
これで今回の作業は完了だ。ポイントになるのは、やはりバックドアの取り付けだろう。パーツの製造には万全を期しているが、どうしても若干の個体差が生じてしまうので、微調整は自身の手で行う必要がある。旧車をレストアしている感覚で、愛着を持って取り組んでほしい。なお、今回使用したJJタイプのビスで残ったもの(予備含め2本)は、今後使用するので大切に保管しておこう。

62号

フロントアンダーカウルを組み立て、 リヤクォーターウィンドウを取り付ける

今号では、60号で提供した「フロントアンダープレートインナー」と61号で提供した「フロントアンダーカウル」の組み立てと、左右サイドウィンドウの後ろに配置されるリヤクォーターウィンドウの取り付け作業を行う。フロントアンダーカウルには、ヘッドライトを起こすための機構が組み込まれるので、特にヘッドライトリフトバーの向きに注意して作業しよう。

今号のパーツ



- ① 左リヤクォーターウィンドウ×1
- ② 右リヤクォーターウィンドウ×1
- ③ 左リヤリフレクター×1
- ④ 右リヤリフレクター×1
- ⑤ リフレクターレンズ×2
- ⑥ フューエルキャップ×1
- ⑦ アンテナ×1

使用する道具

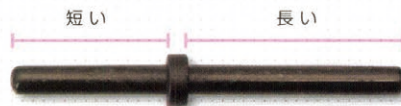
- ・プラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)

用意するもの

- ・フロントアンダープレートインナー(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・右フロントウインカー(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・左フロントウインカー(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・コイルスプリング(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ヘッドライトリフトバー(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ヘッドライトリフトバーベース(60号で提供し、保管しておいたもの)
- ・フロントアンダーカウル(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・フロントアンダーカウルプレート(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ビス(Pタイプ)×2(58号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ビス(Eタイプ)×3(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ビス(Hタイプ)×4(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ボディ(61号で組み立てたもの)
- ・柔らかい布(タオルなど)



1



60号で提供したヘッドライトリフトバーを用意しよう。写真を参照し、長い方と短い方があることを確認する。

2



60号で提供したフロントアンダープレートインナーを用意し、写真で示した穴にヘッドライトリフトバーの“短い側”を差し込む。

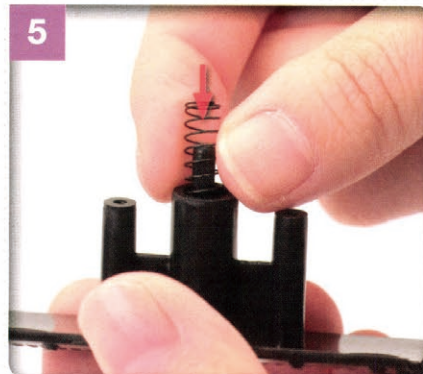
3



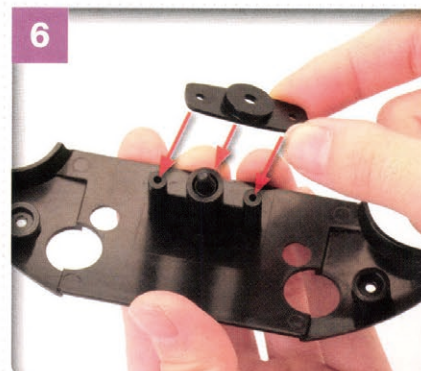
ヘッドライトリフトバーを差し込んだ状態。リフトバーの先端が、穴の上部よりも少しだけ突き出していることが分かる。



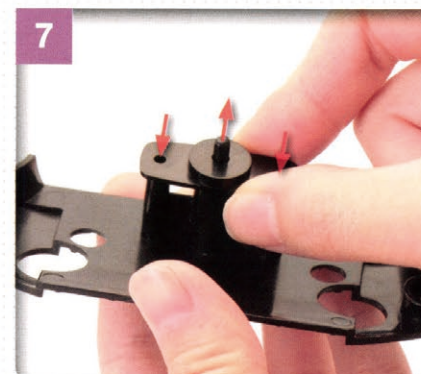
4
60号で提供したコイルスプリングを用意し、ヘッドライトリフトバーにかぶせるようにセットする。



5
コイルスプリングの内側に、ヘッドライトリフトバーを通し、そのままコイルスプリングを穴の中に落とし込む。



6
60号で提供したヘッドライトリフトバーベースを用意し、パーツを写真の向きにしてセットする。



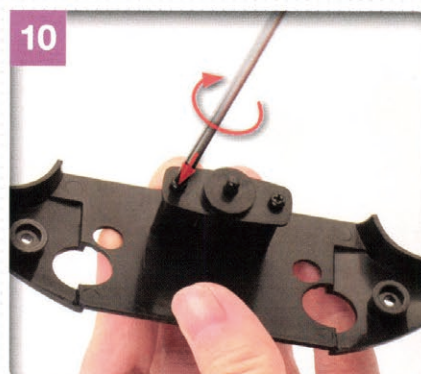
7
ヘッドライトリフトバーベースをフロントアンダープレートインナーにはめ込む。このとき、中央の穴からヘッドライトリフトバーが突き出した状態になる。



8
61号で提供したHタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。



9
1番のプラスドライバーを使い、Hタイプのビスをねじ込む。ヘッドライトリフトバーベースが、カタカタと動かなければOKだ。



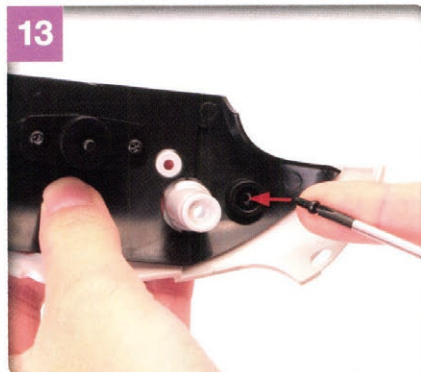
10
もう片側のビス穴にもHタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込んでパーツを固定する。



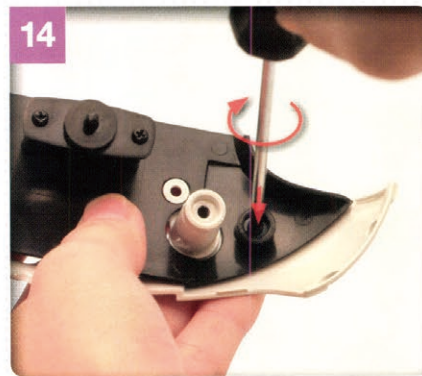
11
61号で提供したフロントアンダーカウルを用意し、10で組み立てたフロントアンダープレートインナーをセットする。



写真で示した2カ所のビス穴は、上下のパーツがはまるようになっているので、しっかりと位置を合わせよう。



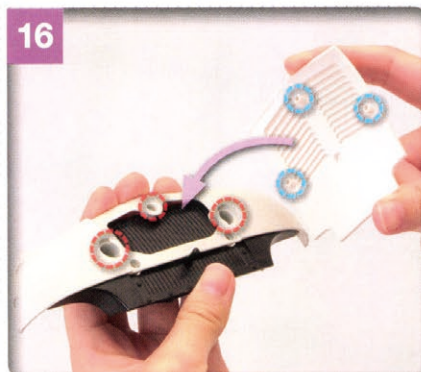
58号で提供したPタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。



1番のプラスドライバーを使い、Pタイプのビスをねじ込む。



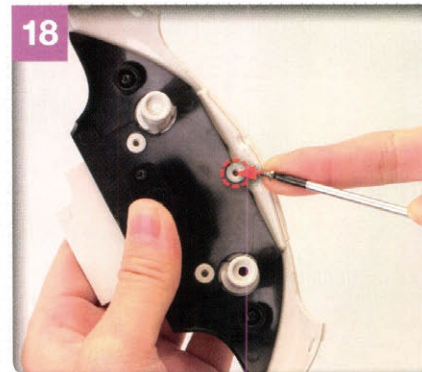
もう片側のビス穴にもPタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込んでパーツを固定する。



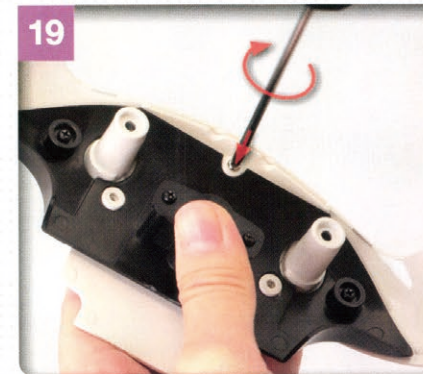
61号で提供したフロントアンダーカウルプレートを用意し、15で組み立てたフロントアンダーカウルの裏側にセットする。セットする向きは写真を参照しよう。



フロントアンダーカウルプレートを、フロントアンダーカウルにはめ込む。



フロントアンダーカウルプレートが外れないよう保持したままパーツを裏返し、写真で示したビス穴に61号で提供したEタイプのビスをセットする。



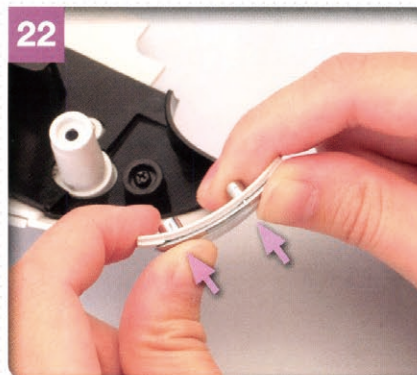
1番のプラスドライバーを使い、Eタイプのビスをねじ込む。



残り2カ所のビス穴にもEタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。



60号で提供した左フロントウインカーを用意して、20で組み立てたフロントアンダーカウルに取り付ける向きを確認する。写真を参照し、間違えないよう注意しよう。

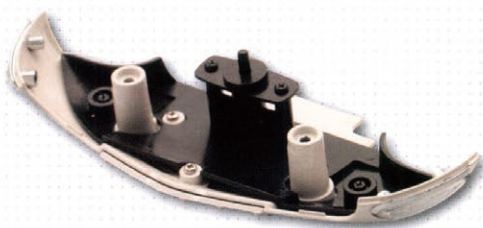


左フロントウインカーの裏側に設けられている2本の取り付けポストを、フロントアンダーカウルの左側面にある取り付け穴に差し込み、真っ直ぐに押し込む。写真のように、パーツを置いた状態で作業するとやりやすい。

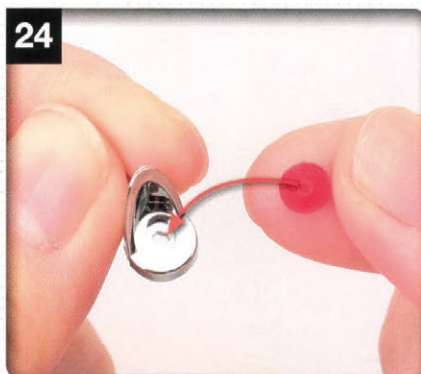


同じく60号で提供した右フロントウインカーを用意し、22と同じ要領でフロントアンダーカウルの右側面に取り付ける。

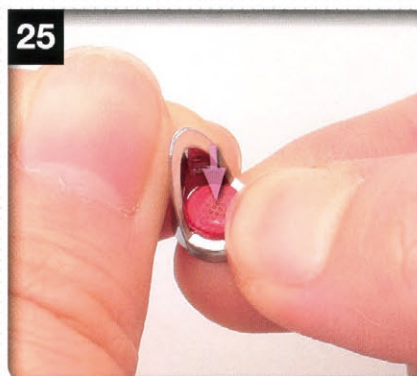
フロントアンダーカウルの完成



これでフロントアンダーカウルは完成だ。このパーツにはヘッドライトを起こすための機構が備わっているので、ボディへの取り付けは後の号で行う。それまで大切に保管しておこう。



③左リヤリフレクターと④右リヤリフレクターを用意し、それぞれに⑤リフレクターレンズを取り付ける。リフレクターレンズの裏面には小さな取り付けピンが設けられているので、それを写真で示した取り付け穴にセットする。

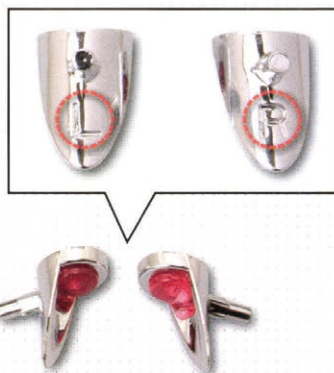


リフレクターレンズを真っ直ぐに押し込み、左右それぞれのリフレクターに固定する。



リフレクターレンズがうまく押し込めない場合は、12号で提供したクロスレンチの軸部分を使うと容易に押し込める。

27



組み立てた左右のリフレクター。裏側には、それぞれ「L」「R」の刻印があるので確認しておこう。

28



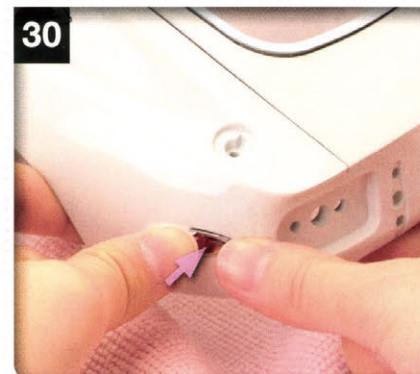
61号で組み立てたボディを用意し、写真で示した取り付け穴に、右リヤリフレクターの取り付けピンをセットする。ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布の上で作業しよう。

29



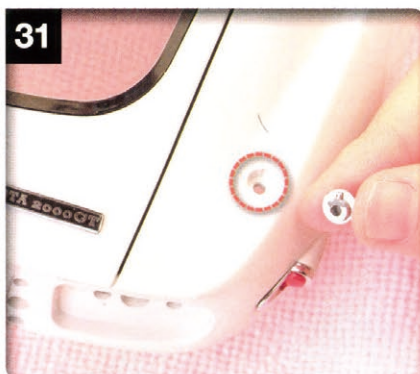
右リヤリフレクターをしっかりと押し込んで、ボディに取り付ける。

30



同じ要領で、ボディの左側にも左リヤリフレクターを取り付ける。

31



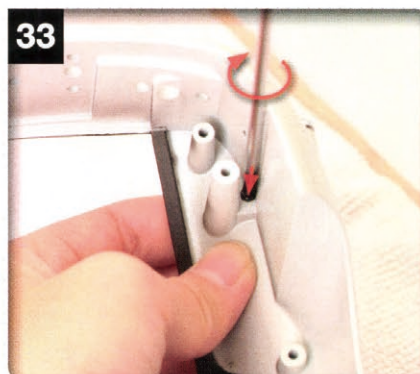
⑦アンテナを用意し、取り付け位置の形状を確認する。アンテナの裏面は、ボディ側の取り付け部にはまるようになっている。

32



取り付け部の形状を合わせ、アンテナをボディにはめ込む。

33



アンテナが抜け落ちないように保持したままボディを裏返す。61号で提供したHタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込んで、アンテナをボディに固定する。

34



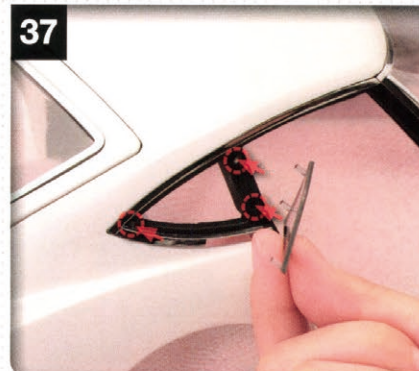
⑥フューエルキャップを用意し、31と同じようにボディの取り付け部の形状を確認する。



取り付け部の形状を合わせ、フューエルキャップをボディにはめ込む。



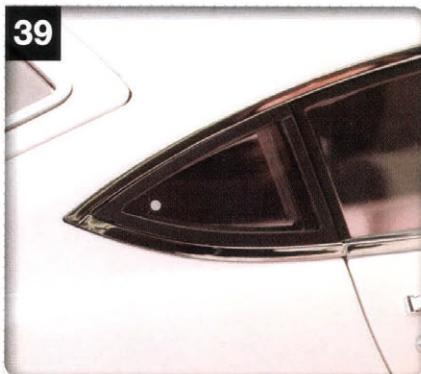
フューエルキャップが抜け落ちないように保持したままボディを裏返す。次に、☒と同じ要領でHタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込んで固定する。



②右リヤクォーターウィンドウを用意し、ボディ右側面の取り付け位置にセットする。左右のリヤクォーターウィンドウはパーツ形状が酷似しているが、軽くボディにセットすれば簡単に判別することができる。



パーツが右リヤクォーターウィンドウであることを確認できたら、そのままボディに押し込んで固定する。



右リヤクォーターウィンドウをボディに取り付けた状態。写真のようになっているか確認しよう。



①左リヤクォーターウィンドウを用意し、ボディ左側面の取り付け位置にセットする。



左リヤクォーターウィンドウを真つすぐに押し込み、ボディに固定する。

今号の完成



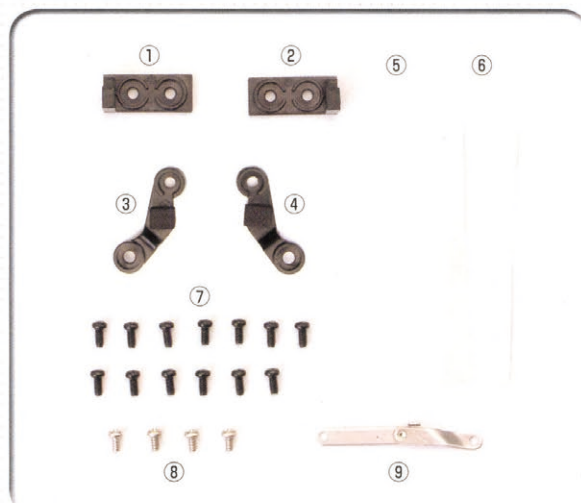
これで今回の作業は完了だ。前回のバックドアに続き、左右のリヤクォーターウィンドウが取り付けられたことで、ボディはさらに完成へと近づいた。

63号

フードとヘッドライトを ボディに取り付ける

今号では、51号で組み立てた「フード」と、58号で組み立てた「ヘッドライト」をボディに取り付ける。取り付け作業自体は決して難しくないが、その後の調整作業がポイントになるので、慎重に作業を進めよう。

今号のパーツ



- ①左フードヒンジ(樹脂パーツ)×1
- ②右フードヒンジ(樹脂パーツ)×1
- ③左ヘッドライトヒンジ×1
- ④右ヘッドライトヒンジ×1
- ⑤両面テープ
- ⑥ドアステップ×2
- ⑦ビス(Pタイプ)×13(※1本は予備)
- ⑧ビス(FFタイプ)×4(※1本は予備)
- ⑨フードクランク×1

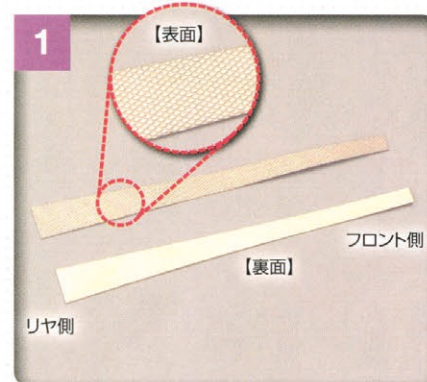
※⑧は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

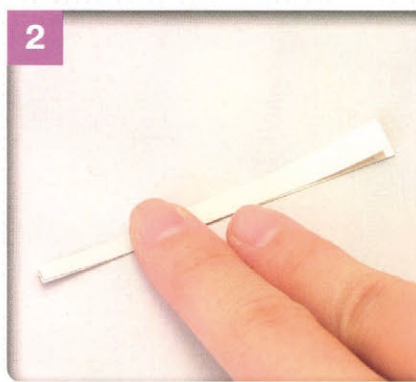
・プラスドライバー(1番)

用意するもの

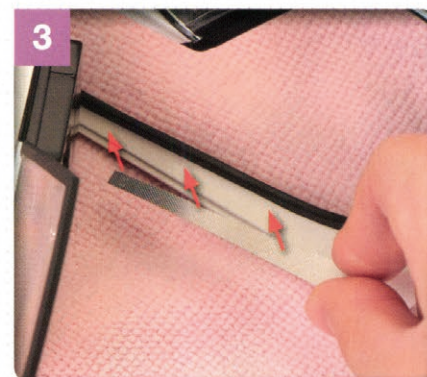
・フード(51号で組み立てたもの)
 ・ヘッドライト(58号で組み立てたもの)
 ・ボディ(62号で組み立てたもの)
 ・マスキングテープ
 ・柔らかい布(タオルなど)



⑥ドアステップを用意し、表面と裏面があることを確認する。表面には細かい模様が刻まれているので、簡単に見分けられるはずだ。幅の狭い方がフロント側、広い方がリヤ側になる。



⑤両面テープを台紙からはがし(※裏紙をはがさないように注意)、ドアステップの裏面に貼り付ける。両面テープはドアステップに近い形状でカットされているので、形を合わせて貼ろう。



ドアステップに両面テープを貼ったら裏紙をはがし、62号で組み立てたボディ左側面の貼り付け位置にセットする。ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布の上で作業しよう。



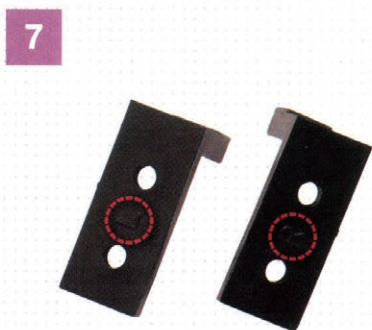
4 ドアステップの前端を、貼り付ける面の一番前に合わせ、フロント側からリヤ側に向かって貼り付ける。



5 ドアステップを貼った状態。写真を参照して位置を確認しよう。



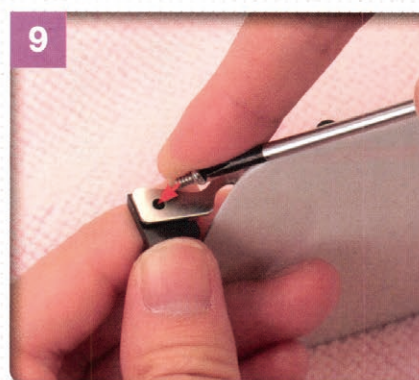
6 2～5の手順と同じ要領で、右側面のドア開口部下面にもドアステップを貼り付けよう。



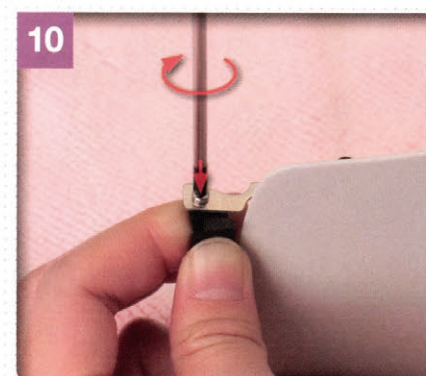
7 ①左フードヒンジと②右フードヒンジを用意し、それぞれの裏面に「L」「R」の文字があることを確認する。このパーツは左右を間違えやすいので、作業前に必ず刻印を確認しよう。



8 タオルを平らな台の上に敷き、そこに51号で組み立てたフードを写真のように立てる。次に右フードヒンジを写真のようにセットする。



9 ⑧ビス(FFタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。このとき、右フードヒンジのビス穴を合わせる。



10 1番のプラスドライバーを使い、FFタイプのビスを軽くねじ込む。



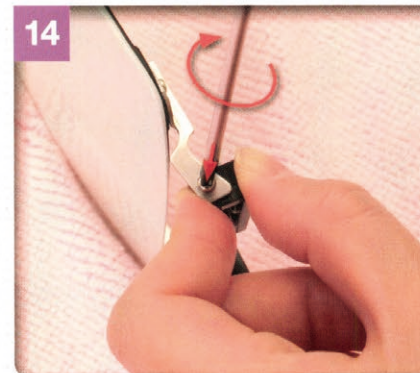
11
フードヒンジの向きを写真のように調整する。



12
1番のプラスドライバーを使い、FFタイプのビスをさらにねじ込む。フードヒンジがガタガタしない程度でOKだ。



13
12で組み立てたフードを上下反対向きにして立て、写真で示した位置に左フードヒンジをセットする。



14
9～12と同じ要領でビス穴にFFタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。



15
フードヒンジを取り付けた状態。左右フードヒンジは、後の作業がやりやすいよう、写真のように向きを揃えておこう。



16
ドアステップを取り付けたボディに、15のフードを写真のようにセットする。



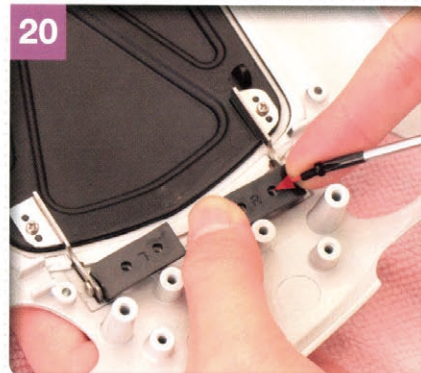
17
フード前縁の左右から突き出しているフードヒンジ(金属パーツ)をボディ側のスリットに差し込む。このとき、今回取り付けたフードヒンジ(樹脂パーツ)は、ボディの裏側に入り込むようにする。



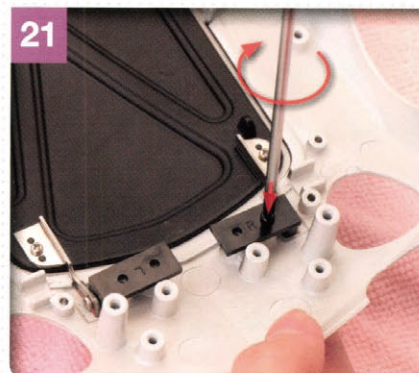
18
17の状態を保持したままフードをさらにフロント側へスライドさせる。フードヒンジ(金属パーツ)が通るスリットの表面には、メッキ仕様のシールが貼られているので、それを傷めないよう注意すること。



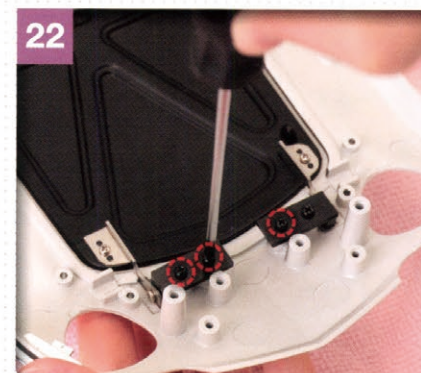
19
 マスキングテープで仮留めすると作業しやすい
 フードをゆっくりと閉じ、ボディにはめ込む。この状態になったら、写真で示した部分にマスキングテープを貼り、フードを仮留めしておく作業しやすくなる。



20
 ボディを裏返し、写真で示したビス穴に⑦ビス(Pタイプ)をセットする。フードヒンジとボディ裏側のビス穴を事前に合わせておこう。



21
 1番のプラスドライバーを使い、セットしたPタイプのビスをねじ込む。フードヒンジがガタつかない程度にねじ込んだら、隣のビス穴にもPタイプのビスをセットし、同じようにねじ込む。



22
 左右のフードヒンジを計4本のビス(Pタイプ)で固定する。ビスをねじ込んだら、それぞれのビスを少しだけ締め込んで固定しよう。



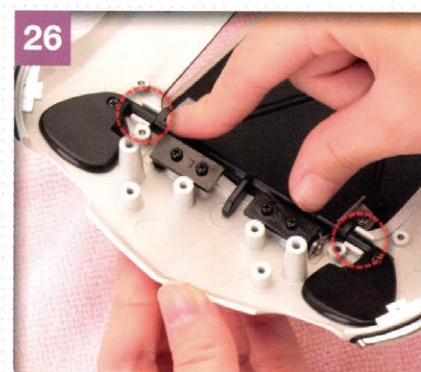
23
 ボディを表向きにし、フードを開閉させて動作を確認する。開閉が固い、あるいは緩いと感じる場合は、⑫と⑭でねじ込んだFFタイプのビスの締め込み加減で調整する。



24
 ③左ヘッドライトヒンジと④右ヘッドライトヒンジを用意し、それぞれの裏面に「L」「R」の文字があることを確認する。このパーツは左右を間違えやすいので、作業前に必ず刻印を確認しよう。



25
 ボディを再び裏返してタオルの上に置く。次に58号で組み立てたヘッドライトを用意し、写真の向きでボディ内側の取り付け位置にセットする。裏返す前に、フードとバックドアをマスキングテープで仮留めしておく作業しやすくなる。



26
 ボディのフロント部を少し持ち上げたまま保持し、ヘッドライトを“開いた状態(=ボディの表面にヘッドライトが突き出した状態)”にしてはめ込む。



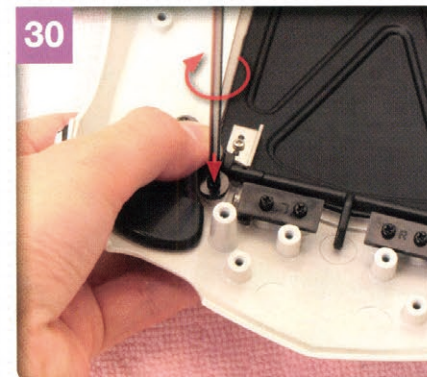
③左ヘッドライトヒンジを用意し、写真の向きで取り付け位置にセットする。



左ヘッドライトヒンジが浮き上がらないよう押さえつけたまま、Pタイプのビスを写真のビス穴にセットする。



1番のプラスドライバーを使い、“左ヘッドライトヒンジが少し動く程度”にねじ込んでおく。



もう片方のビス穴にもPタイプのビスをセットし、29と同程度にねじ込む。



右ヘッドライトヒンジを用意し、写真の向きで取り付け位置にセットする。



右ヘッドライトヒンジが浮き上がらないよう押さえつけたまま、Pタイプのビスを写真のビス穴にセットする。



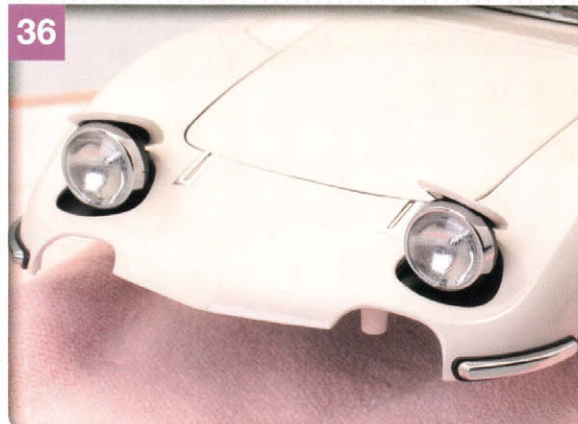
1番のプラスドライバーを使い、32と同じ程度にねじ込んでおく。



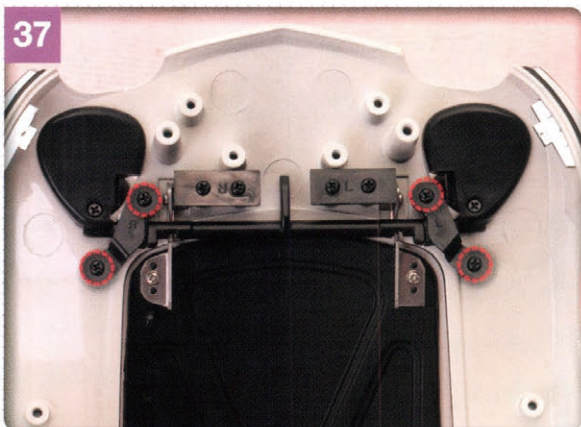
もう片方のビス穴にもPタイプのビスをセットし、32と同程度にねじ込む。



ボディを表向きにして置き、ボディ裏側からヘッドライトを動かして開閉状態の確認を行う。



ヘッドライトを開いた状態にしたとき、裏側で支えている手を外しても同じ状態を維持しているならばOKだ。しかし、ヘッドライトが下がってしまう場合は23~24でねじ込んだビスの締め込み加減で調整する(詳しくは27で説明)。



ヘッドライトの開閉状態は、写真で示したビスの締め込み加減で行う。4本のビス全部をいっぱいまで締め込んでもヘッドライトが下がってしまう場合は、一度ヘッドライトを取り外し、58号の組み立てガイドの13ページの22で示した部分にセロハンテープを1周巻き付けてから再度組み立て、ビスによる調整作業を行おう。

今号の完成



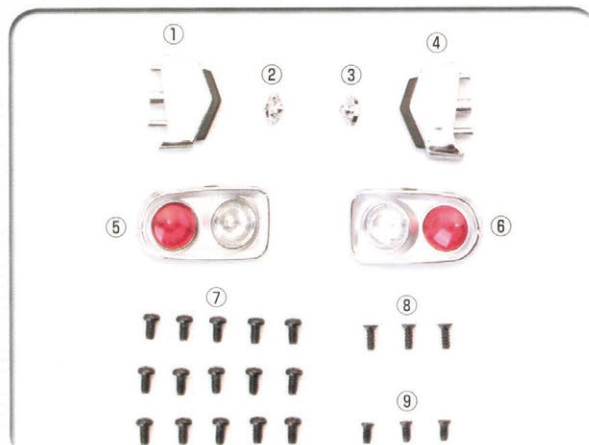
これで今回の作業は完了だ。ボディにフードとヘッドライトが備わり、完成まであと一歩の状態になった。なお、今回残ったビス(Pタイプが予備も含め5本、FFタイプが予備も含め2本)は、今後の作業で使用するので、大切に保管しておこう。

64号

エンジンコンパートメントと ダッシュボードをボディに取り付ける

今号では、24号で組み立てたエンジンコンパートメントと、60号で組み直したダッシュボードをボディに取り付ける。エンジンコンパートメントには、これまで保管しておいたパーツを取り付けるので、忘れずに用意しておこう。加えて、テールランプとリヤバンパーも仮留めの状態で組み立てる。

今号のパーツ



- ① 左リヤバンパー×1
- ② 左リヤ番号標灯×1
- ③ 右リヤ番号標灯×1
- ④ 右リヤバンパー×1
- ⑤ 左テールランプ×1
- ⑥ 右テールランプ×1
- ⑦ ビス(DDタイプ)×15(※1本は予備)
- ⑧ ビス(CCタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑨ ビス(Oタイプ)×3(※1本は予備)

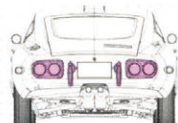
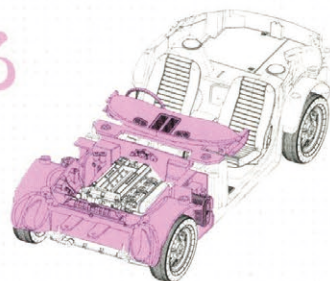
※②と③は左右共通の形状なので、どちらを右にしても左にしてもいい。
※⑧は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

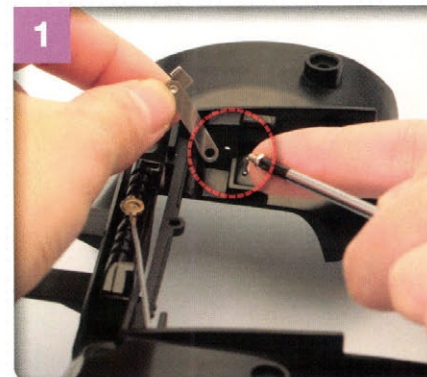
- ・ロングタイプドライバー
(9号で提供したもの)
- ・ピンセット(2号で提供したもの)

用意するもの

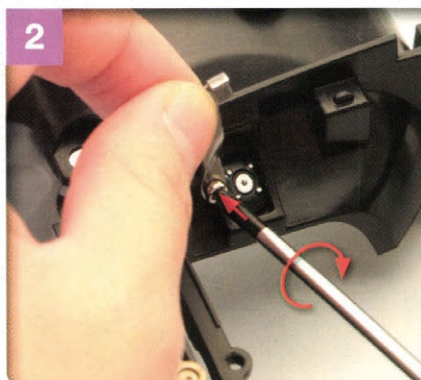
- ・エアクリーナー(16号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ウォッシュャータンク(16号で組み立て、保管しておいたもの)
- ・エンジンコンパートメント(24号で組み立てたもの)
- ・フロントグリル(53号で組み立てたもの)
- ・ブレーキブースター(59号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ダッシュボード(51号で組み立てたもの)
- ・バッテリー(16号で組み立てたもの)
- ・フードクランク(63号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ボディ(63号で組み立てたもの)
- ・ビス(FFタイプ)×1(63号で提供し、使用した残りを保管しておいたもの)
- ・ビス(Cタイプ)×2(44号で提供し、使用した残りを保管しておいたもの)
- ・ビス(Pタイプ)×4(63号で提供し、使用した残りを保管しておいたもの)
- ・マスキングテープ
- ・柔らかい布(タオルなど)



今号で
作業する箇所



24号で組み立てたエンジンコンパートメントと63号で提供したフードクランクを用意する。フードクランクを写真の向きで持ち、先端の穴をエンジンコンパートメントのビス穴に合わせ、63号で提供したFFタイプのビスをセットする。



ロングタイプドライバーを使い、FFタイプのビスをねじ込む。取り付けたフードヒンジがスムーズに動く程度にねじ込むようにしましょう。



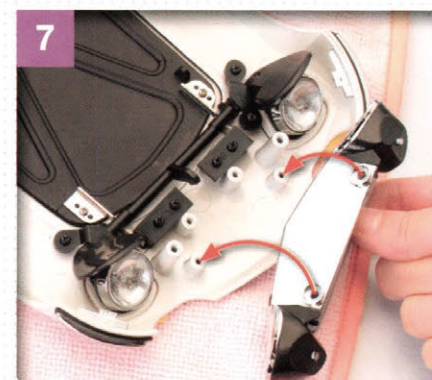
4
59号で提供したブレーキブースターを用意し、エンジンコンパートメント右側面の、写真で示した位置に向きを合わせてセットする。



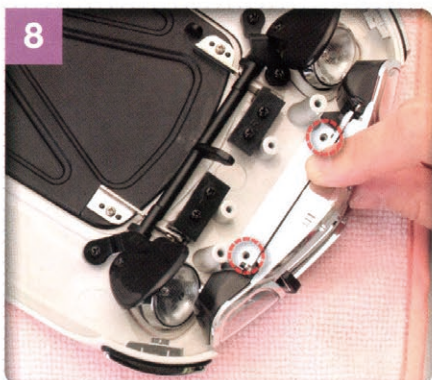
5
ブレーキブースターを真っすぐに押し込み、エンジンコンパートメントに取り付ける。



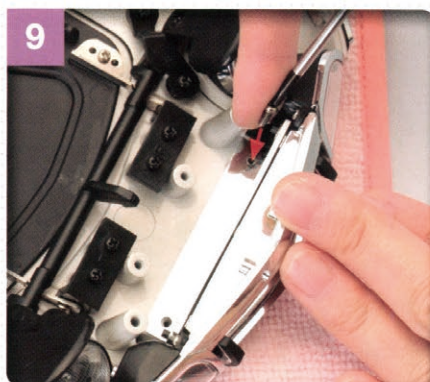
6
63号で組み立てたボディを用意し、写真のように開閉する部分をマスキングテープで仮留めする。これは作業中にパーツを傷めないようにするためだ。ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布の上で作業しよう。



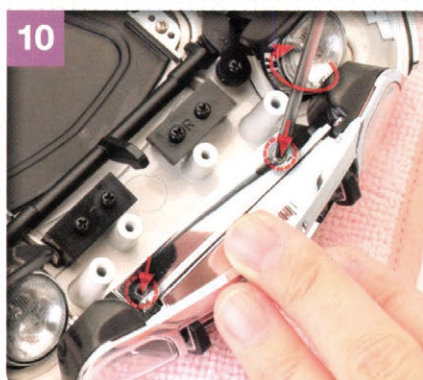
7
ボディを裏返して置く。次に53号で組み立てたフロントグリルを用意し、取り付け部を確認する。写真で示したリング状の突起が、ボディ裏面のポストにはまるようになる。



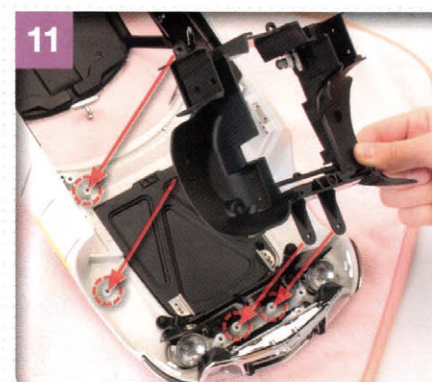
8
フロントグリルを取り付け位置にセットする。リング状の突起とボディ側のポストがはまっていることを確認しよう。



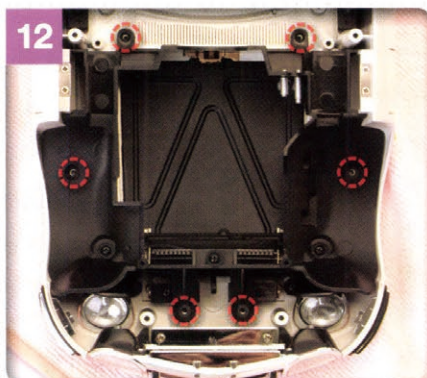
9
44号で提供したビス(Cタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。



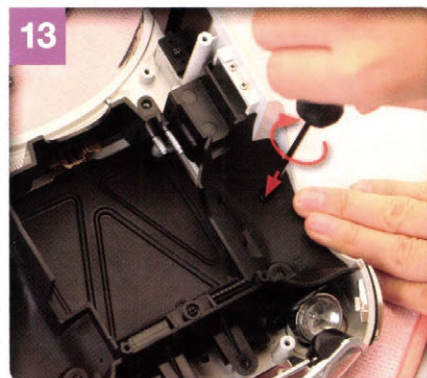
10
ロングタイプドライバーを使い、Cタイプのビスをねじ込んでフロントグリルを固定する。もう片側のビス穴にも、同じ要領でCタイプのビスをねじ込む。



11
5で組み立てたエンジンコンパートメントを用意し、裏返してボディにセットする。エンジンコンパートメントの向きを間違えないよう、写真を参照しよう。



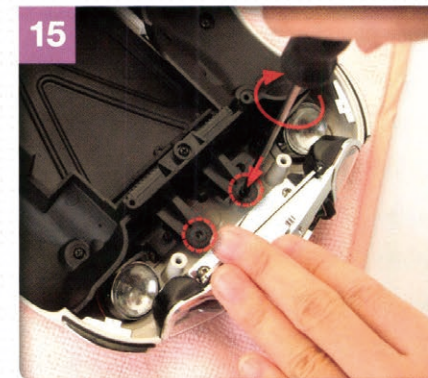
12 エンジンコンパートメントをボディ裏側にはめ込んだ状態。写真で示した計6カ所のビス穴の位置を確認しておこう。



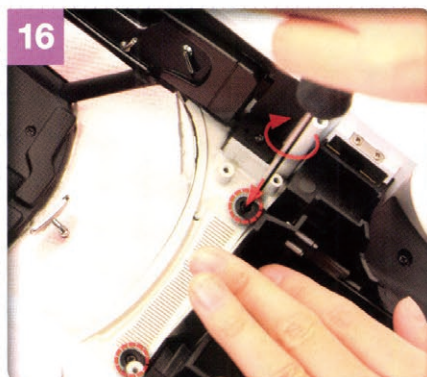
13 ⑦ビス(DDタイプ)を用意し、タイヤハウス部分のビス穴にセットし、ロングタイプドライバーでねじ込む。



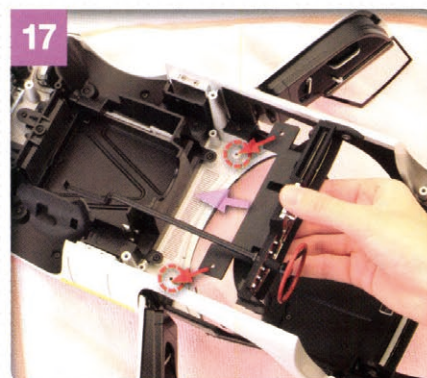
14 反対側のタイヤハウスのビス穴にも、DDタイプのビスをセットしてねじ込む。



15 63号で提供したPタイプのビスを2本用意し、写真で示したビス穴にセットして、ロングタイプドライバーでねじ込む。



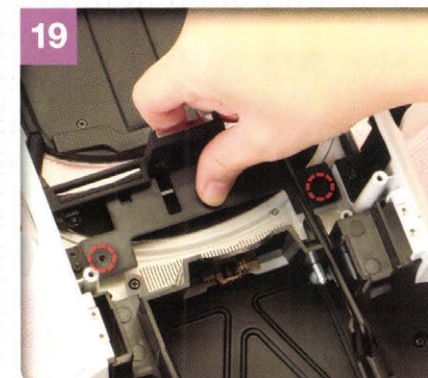
16 ⑨ビス(Oタイプ)を2本用意し、写真で示したビス穴にセットして、ロングタイプドライバーでねじ込む。



17 左右のドアを開き、51号で組み立てたダッシュボードを用意し、裏返して写真の位置にセットする。

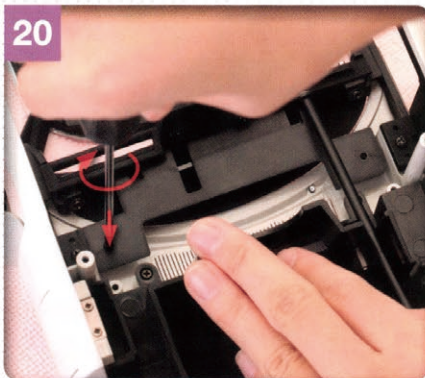


18 ステアリングシャフトが、写真で示したエンジンコンパートメントのスリット部分にはまるようにセットしよう。



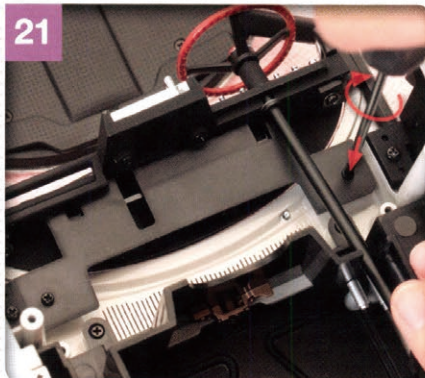
19 ダッシュボードをセットしたら、写真で示した2カ所のビス穴が、ボディ裏面から突き出したポスト部分と重なるように位置を合わせる。このとき、Aピラークッションをダッシュボードの切り欠きに合わせる。

20



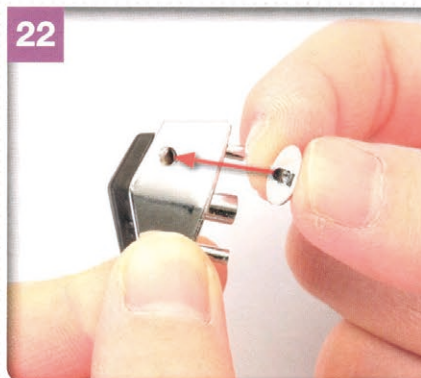
63号で提供したPタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットして、ロングタイプドライバーでねじ込む。

21



もう片側のビス穴にも、Pタイプのビスをセットしてねじ込む。

22



①左リヤバンパーと②左リヤ番号標灯を用意し、左リヤ番号標灯から突き出した取り付けピンと、左リヤバンパー側面に設けられた穴の形状を合わせて差し込む。番号標灯の形状は左右共通なので、取り付ける向きにだけ注意しよう。④右リヤバンパーと③右リヤ番号標灯も同じ要領で差し込もう。

23

【左リヤバンパー】 【右リヤバンパー】



組み立てた状態の左右リヤバンパー。ボディへ取り付けるときは、それぞれ番号標灯が内側になるので間違えないように注意しよう。

24



⑤左テールランプを用意し、形状を確認する。左右のテールランプは似通った形状だが、取り付けピンに対するパーツの角度が異なっているので、そこで見分けよう。

25



左テールランプを、21の作業を終えたボディに差し込む。

26



左右を間違えていなければ、写真の状態になる。間違えていた場合、テールランプがボディから浮き上がってしまうので、正しいパーツに付け替えよう。

27



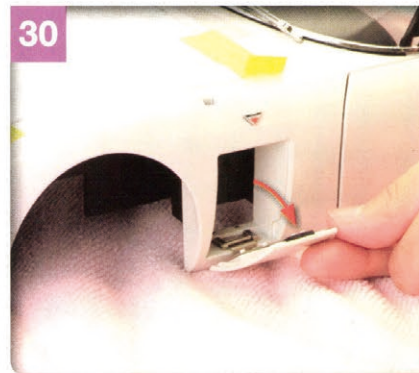
23で組み立てた左リヤバンパーを写真の位置に差し込む。ボディが裏返しの状態なので、バンパーも上下を逆さに取り付けられている。



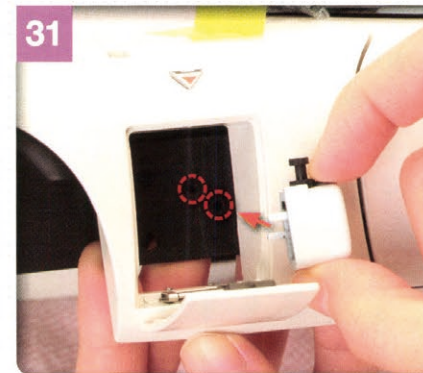
⑥右テールランプ、及び右リアバンパーも同じ要領でボディに取り付けよう。



テールランプ及びリアバンパーの固定は次の作業で行うので、今回はマスキングテープを貼って仮留めしておく。



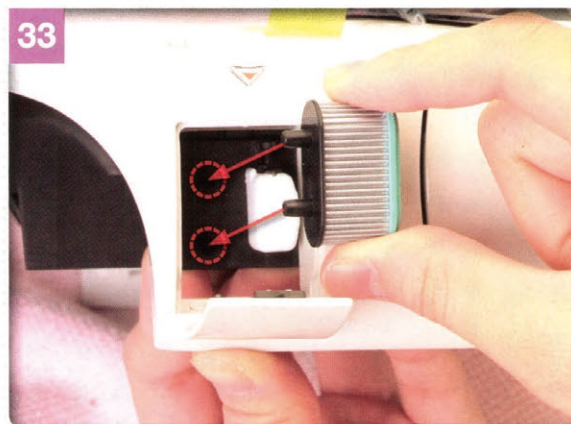
ボディを表に戻し、左側面のサービスリッドを開ける。開けにくい場合は、マスキングテープを少し貼って引き開けてみよう。



16号で組み立てたウォッシャータンクを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。



ウォッシャータンクを真っすぐに押し込み、サービスリッド内に取り付けろ。



16号で提供したエアクリーナーを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。



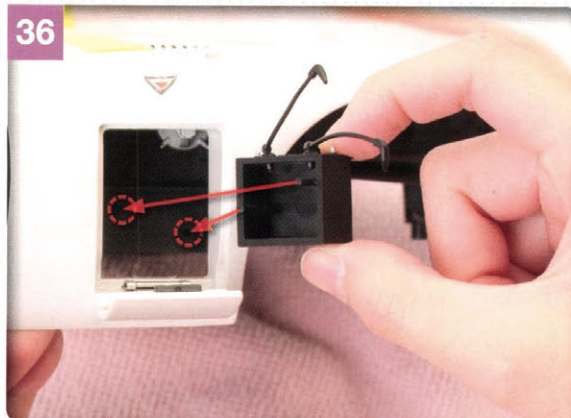
エアクリーナーを真っすぐに押し込み、ウォッシャータンクの横に取り付ける。



35

ここに楕円形の
穴があることを確認する。

ボディ右側面のサービスリッドを開け、内部の取り付け穴の位置を確認する。奥に見える楕円形の穴は、バッテリーケーブル端子の先端を差し込むためのものだ。



36

16号で組み立てたバッテリーを用意し、写真で示した取り付け位置にセットする。



37

ケーブル端子

バッテリーを真っすぐに押し込み、サービスリッド内に取り付ける。このとき、バッテリーケーブル端子の先端は、ボディの外に引き出しておく。



38



突き出したケーブル端子先端を
引っ張り出す。



2本目のケーブル端子先端を
引っ張り出す。

ピンセットを使い、バッテリーケーブル端子の先端を35で確認した楕円形の取り付け穴に差し込むのだが、少々コツが必要になるので、以下の手順に従って作業を進めよう。

- ・取り付け穴に近いケーブル端子先端を差し込む。
- ・ボディを裏返し、穴から突き出したケーブル端子先端をボディ内側に引っ張り出す。
- ・もう1本のケーブル端子先端を取り付け穴に差し込む。
- ・先と同じ要領で、穴から突き出したケーブル端子先端をボディ内側に引っ張り出す。

ボディ内側に引っ張り出したケーブル端子は、完成時には外部から見えなくなる。また、先端がL字形に曲がっているため、容易に抜けることはない。

今号の完成



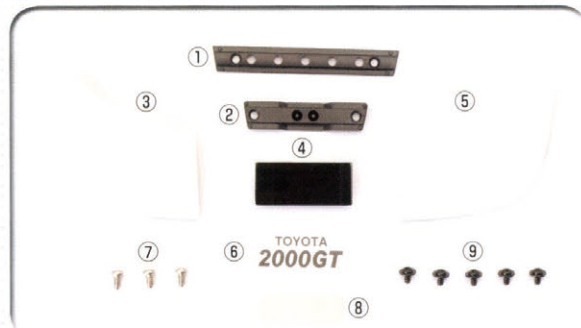
これで今回の作業は完了だ。まるでレストア中の実車ボディを思わせる状態だが、次回の作業でいよいよモデルは完成する。今号で残ったビスやこれまでに提供し、保管しておいたビス(予備も含む)を整理しなおし、最後の作業に臨もう。なお、今回の作業で組み立てたボディは、まだ「シャシーに載せることはできない」ので注意が必要だ。現時点でボディをシャシーに搭載すると最後の組み立て作業に支障が生じてしまうので、現状のまま保管しよう。

65号

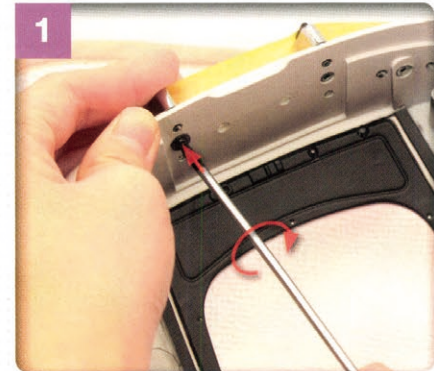
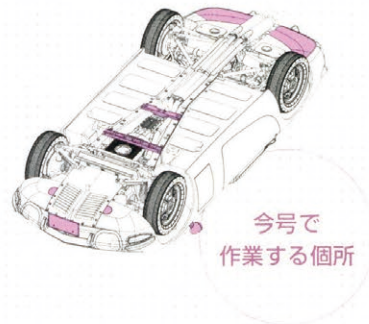
モデルを完成させる

いよいよ今号の組み立て作業で2000GTが完成する。これまでに提供し、保管しておいたパーツも取り付けるので、不足がないか事前に確認しておこう。また、ボディをシャシーに載せる前に、取り付けた各パーツに不具合がないかもチェックしよう。

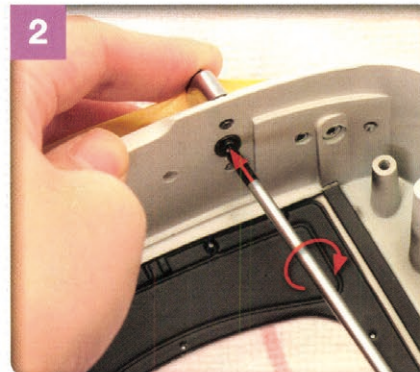
今号のパーツ



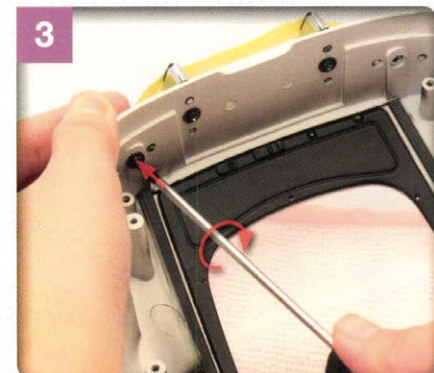
- ① フレームサポートA×1
- ② フレームサポートB×1
- ③ 右リアアンダーカウル×1
- ④ リヤナンバープレートフレーム×1
- ⑤ 左リアアンダーカウル×1
- ⑥ ナンバープレート×1
- ⑦ ビス(MMタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑧ 両面テープ×1
- ⑨ ビス(IIタイプ)×5(※1本は予備)



64号で組み立てたボディと、⑨ビス(IIタイプ)を用意する。写真で示したビス穴にIIタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーを使ってねじ込み、左リアバンパーを固定する。ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布の上で作業しよう。



右リアバンパーも、IIタイプのビスを使い、1と同じ要領で固定しよう。



左テールランプもIIタイプのビスを使い、ボディに固定する。

使用する道具

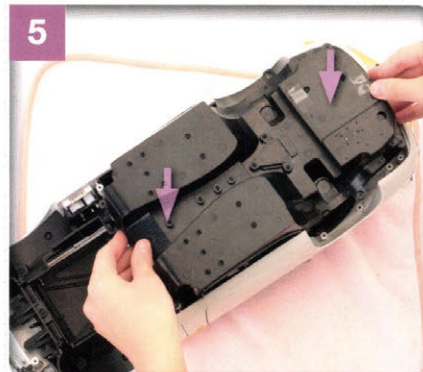
- ・ロングタイプドライバー(9号で提供したもの)
- ・ピンセット(2号で提供したもの)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)

用意するもの

- ・左フロント用ハブナット(1号で提供し、保管しておいたもの)
- ・右フェンダーミラー(5号で提供し、保管しておいたもの)
- ・右フロント用ハブナット(6号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ナンバープレート(13号で組み立て、保管しておいたもの)
- ・左リア用ハブナット(18号で提供し、保管しておいたもの)
- ・右リア用ハブナット(20号で提供し、保管しておいたもの)
- ・左フェンダーミラー(23号で提供し、保管しておいたもの)
- ・キャビンフロア(34号で組み立てたもの)
- ・ホースコネクター(39号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ラジエーターホース(39号で提供し、保管しておいたもの)
- ・シャシーフレーム(52号で組み立てたもの)
- ・右ビス穴カバー(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・左ビス穴カバー(61号で提供し、保管しておいたもの)
- ・フロントアンダーカウル(62号で組み立てたもの)
- ・ボディ(64号で組み立てたもの)
- ・ビス(Nタイプ)×2(43号で提供し、保管しておいたもの)
- ・ビス(CCタイプ)×4(43号で提供、49号で使用した残り2本と、64号で提供したもの)
- ・ビス(JJタイプ)×1(61号で提供し、使用した残りを保管しておいたもの)
- ・ビス(DDタイプ)×12(64号で提供し、使用した残りを保管しておいたもの)
- ・マスキングテープ
- ・柔らかい布(タオルなど)



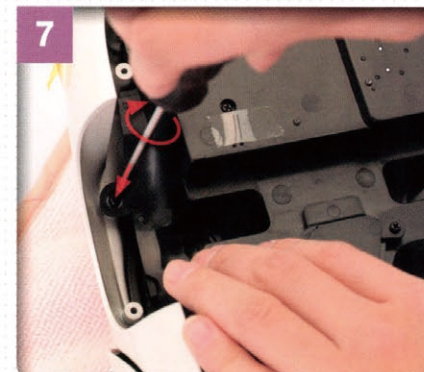
右テールランプもIIタイプのビスを使って固定する。このとき、ハンドルがドライバーのグリップに干渉してしまうので、写真のようにいったん取り外し、ビスのねじ込みが終わってから再度取り付ける。



34号で組み立てたキャビンフロアを用意し、リヤコンパートメントカバーとスペアタイヤを取り外した状態にする。次にタオルの上にボディを裏返しに置き、そこにキャビンフロアを“裏返しの状態”ではめ込む。



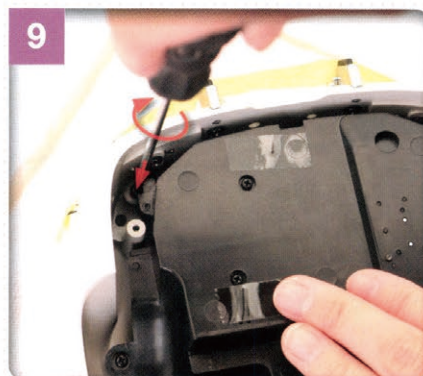
キャビンフロアをボディ内側にはめ込んだ状態。キャビンフロアはボディ内側にビスで固定するので、写真を参照してビス穴の位置を確認しておこう。



64号で提供したDDタイプのビスを写真で示したビス穴にセットし、ロングタイプドライバーを使ってねじ込む。この段階では、軽めにねじ込む程度にしておく。



反対側にある右タイヤハウス上部のビス穴にもDDタイプのビスをセットし、軽めにねじ込んでおく。



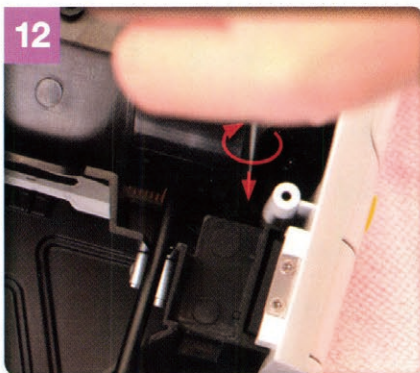
ボディの左リヤ後端側のビス穴にもDDタイプのビスをセットして、軽めにねじ込む。



同じく右リヤ後端側のビス穴にもDDタイプのビスを軽めにねじ込もう。



エンジンコンパートメントとの境目にあるビス穴にDDタイプのビスをセットし、軽くねじ込む。なお、このビス穴の縁がエンジンコンパートメントの端と重なっていると、ビスを正しくねじ込めない。写真を参照し、正しい状態になっているか確認しよう。



12

反対側のビス穴にもDDタイプのビスをセットし、軽めにねじ込む。計6本のビスをねじ込んだら、7~12でねじ込んだビスを均等に増し締めし、キャビンフロアをボディ内側に固定する。

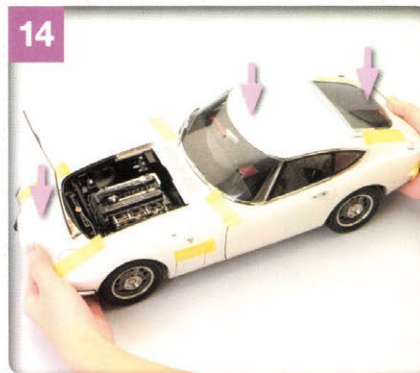


13

イグニッションコイルをヘッドカバーの上に載せておく。

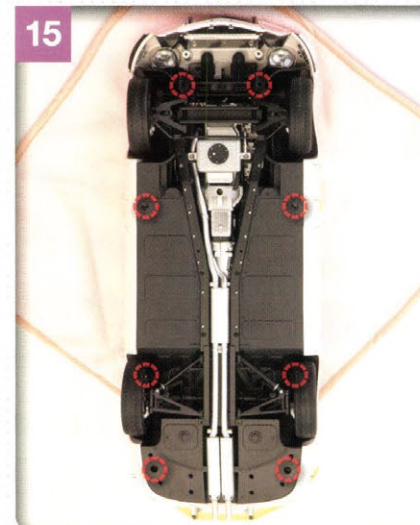
52号で組み立てたシャシーフレームを用意し、表向きにしたボディをゆっくりと載せる。このとき、ボディはフードを開けた状態にし、エンジンコンパートメントの内側にエンジンが収まるよう、位置を調整しながら慎重に載せる。なお、ラジエーターキャップから伸びたホースは写真で示したエンジンコンパートメント左前端的穴に差し込み、イグニッションコイルはシリンダーヘッドカバーの上に載せておく。

この穴にホースの先端を差し込む。



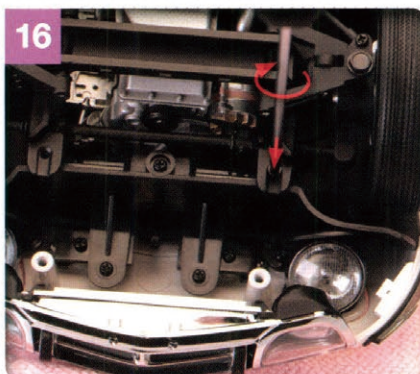
14

ボディのフロント側からシャシーに載せ、エンジンがコンパートメント内側に収まったことを確認してから、ボディ後部を下ろしてシャシーにはめ込む。



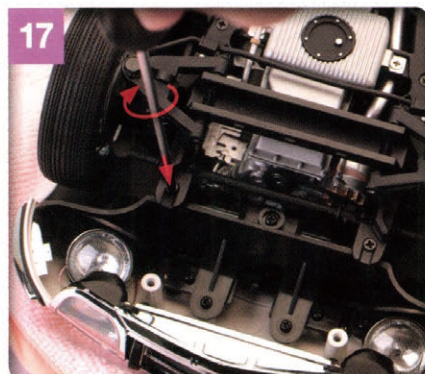
15

フードを閉めて、ボディとシャシーがずれないように注意しながら車体を裏返し、ボディとシャシーの取り付け位置を確認する。ボディが傷つくのを防ぐため、タオルなどの柔らかい布の上で作業しよう。



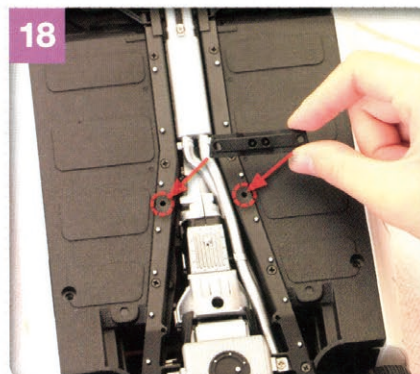
16

43号と64号で提供したCCタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴に、ロングタイプドライバーで軽くねじ込む。



17

反対側のビス穴にもCCタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーで軽くねじ込んでおく。



18

②フレームサポートBを用意し、写真の向きでシャシーにセットする。

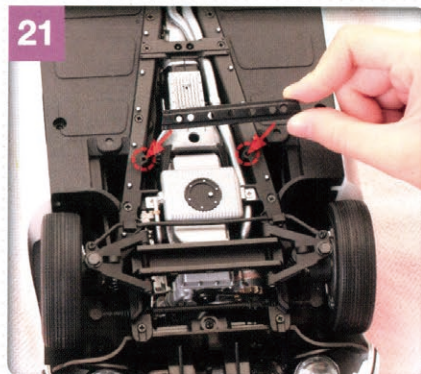


19

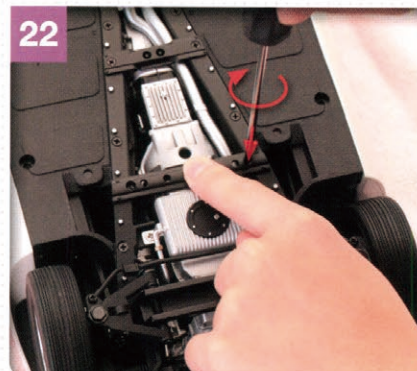
CCタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットして、ロングタイプドライバーでねじ込む。なお、このビス穴にはタップを立てていないので、ビスを傷めないよう慎重に作業しよう。



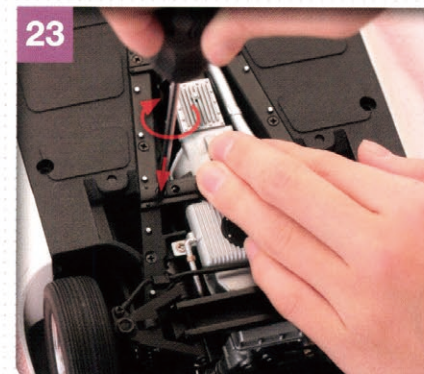
反対側のビス穴にもCCタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーでねじ込んで、フレームサポートBをシャシー裏面に固定する。



①フレームサポートAを用意し、写真で示した位置にセットする。



43号で提供したNタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットして、ロングタイプドライバーでねじ込む。



反対側のビス穴にもNタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーでねじ込んで、フレームサポートAをシャシー裏面に固定する。



クロスレンチを使い、固定ナットをゆるめて左右のリヤタイヤを取り外しておく。取り外したタイヤは、作業後に再度取り付ける。



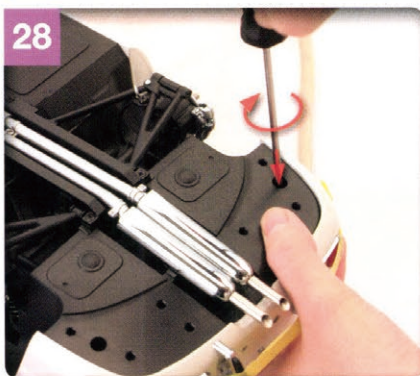
右リヤのタイヤハウス内側にあるビス穴にDDタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーで軽くねじ込む。



左リヤのタイヤハウス内側にもビス穴が設けられているので、DDタイプのビスをセットし、ロングタイプドライバーで軽くねじ込む。

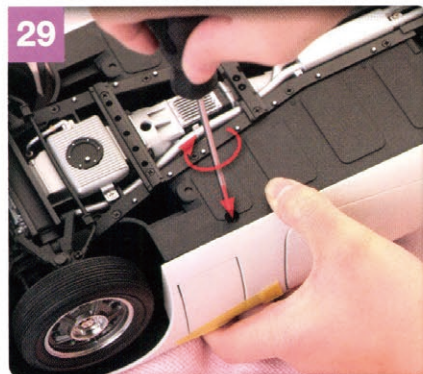


写真で示したビス穴にDDタイプのビスを差し込み、ロングタイプドライバーを使って、穴の奥にあるビス穴に軽くねじ込む。ボディとシャシーをしっかりとめ込んだにもかかわらず、シャシー後端が浮き上がっている場合は、ビス穴の周囲を軽く押しながらビスをねじ込もう。



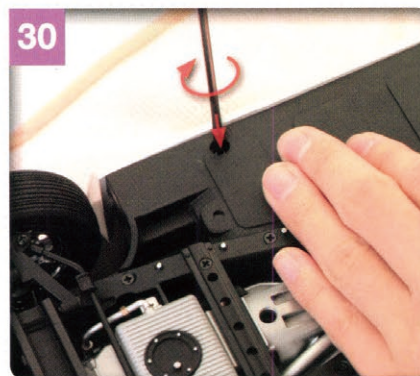
28

反対側のビス穴にもDDタイプのビスを差し込み、ロングタイプドライバーを使って、穴の奥にあるビス穴に軽くねじ込んでおく。



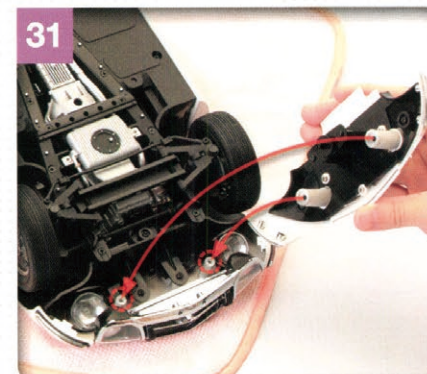
29

写真で示したビス穴にもDDタイプのビスを差し込み、ロングタイプドライバーを使って、穴の奥にあるビス穴に軽くねじ込む。



30

反対側のビス穴にもDDタイプのビスを差し込み、ロングタイプドライバーを使って、穴の奥にあるビス穴に軽くねじ込む。ビスをねじ込み終わったら、16、17、25～30でねじ込んだCC及びDDタイプのビスを増し締めし、シャーシとボディを固定する。その後、24で外した左右リヤタイヤを取り付ける。リヤアクスルシャフトを引き出してから取り付けるのがコツ。



31

62号で組み立てたフロントアンダーカウルを用意し、写真で示した位置にセットする。



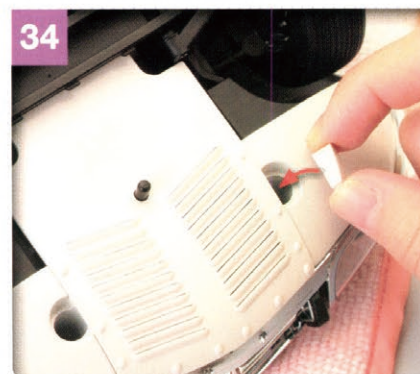
32

フロントアンダーカウルをボディにはめ込み、写真で示した穴の奥にあるビス穴に⑦ビス(MMタイプ)を差し込み、ロングタイプドライバーを使ってねじ込む。



33

反対側の穴にもMMタイプのビスを差し込み、ロングタイプドライバーでねじ込んでフロントアンダーカウルを固定する。



34

61号で提供した右ビス穴カバーを用意し、32でビスをねじ込んだ穴にセットする。向きを間違えないよう注意しよう。

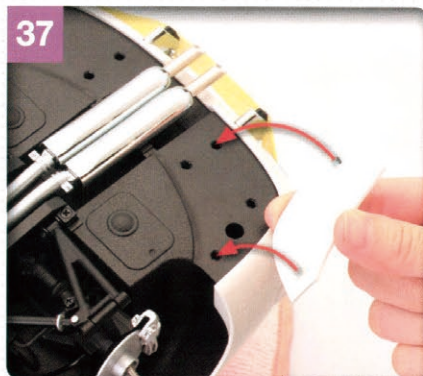


35

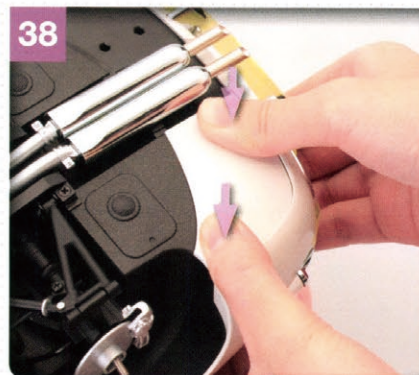
ビス穴カバーを押し込み、表面が“ツライチ”になるようにする。強く押し込むとカバーが穴の中に入り込んでしまう場合があるので注意しよう。



もう片側のビス穴も、左ビス穴カバーを使ってふさぐ。



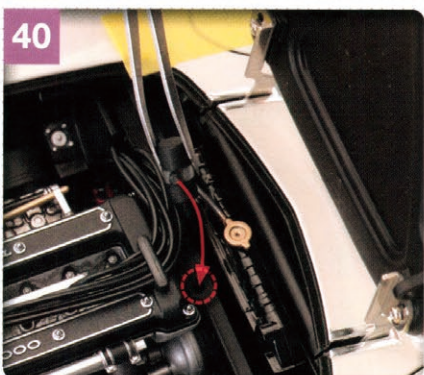
③右リアアンダーカウルを用意し、写真で示した取り付け位置にセットする。



右リアアンダーカウルを押し込み、シャシプレート後端にはめ込む。



同じ要領で⑤左リアアンダーカウルをシャシプレートにはめ込もう。



ボディを表向きに戻し、フードを開ける。次に、イグニッションコイルを写真で示した取り付け穴にはめ込む。



39号で提供したホースコネクタとラジエーターホースを用意し、写真の向きではめ込む。



ヒーターホースの先端に、**41**で組み立てたホースコネクタを取り付ける。ヒーターホース先端にある取り付けピンの形状と、ホースコネクタ側の穴の形状を合わせてから差し込むこと。



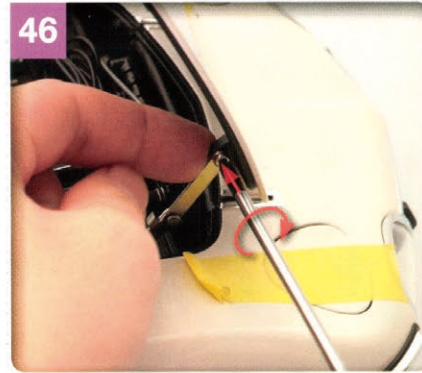
ラジエーターホース先端を、ラジエーター背面の右上に設けられた取り付け穴に差し込む。



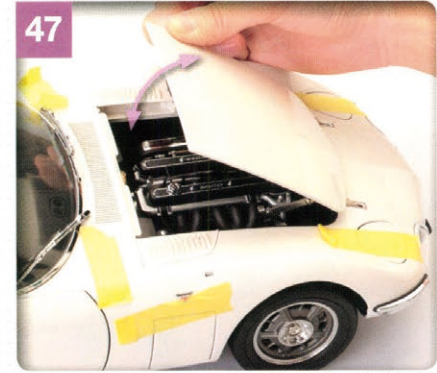
44 フードクランクを延ばし、先端の取り付け穴をフード裏面の取り付け部にセットする。



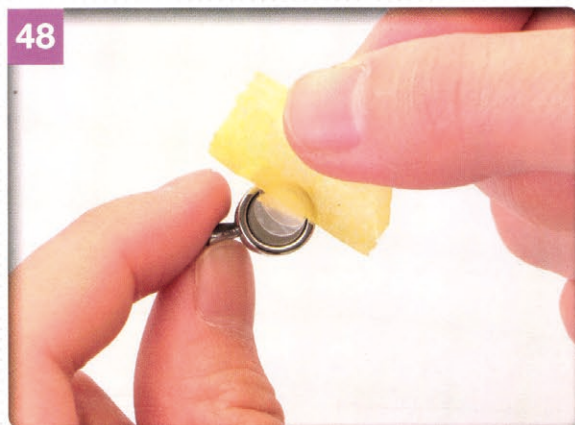
45 61号で提供したJJタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。



46 ロングタイプドライバーを使い、セットしたJJタイプのビスをねじ込む。



47 フードを開閉し、スムーズに動くか確認する。開閉の固さは、JJタイプのビスの締め込み加減で調整できる。



48 5号、及び23号で提供した左右のフェンダーミラーを用意する。ミラー面には透明な保護シートが貼られているので、マスキングテープを使ってはがしておく。



49 右フェンダーミラーを、ボディ右側面にある取り付け部に差し込む。フェンダーミラーは、外側がメッキ仕様になるよう向きを合わせる。



50 同じ要領で、左フェンダーミラーもボディに取り付ける。取り付けピンが長すぎて、うまく差し込めない場合は、ピンの先端部分を少しだけカットしよう。

51

【左用】

【右用】



1、6、18、20の各号で提供したハブナットを用意し、左右を再確認しておく。ルーペなどを使い、表面に描かれているローテーションマークと「Left」「Right」の文字を確かめよう。

52

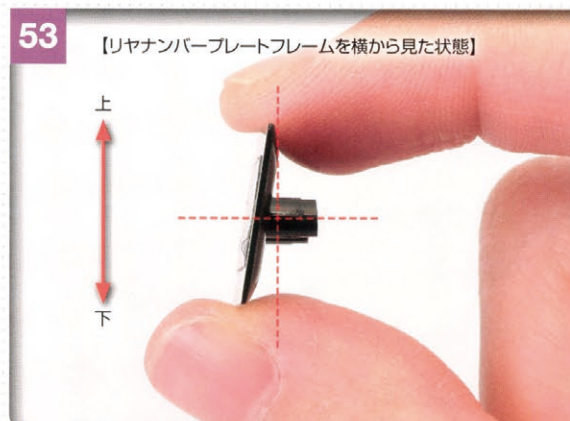


ホイールを固定しているナットにハブナットをかぶせ、取り付ける。ハブナット内部にはマグネットが内蔵されているので、簡単に脱着することができる。

53

【リヤナンバープレートフレームを横から見た状態】

上
下



④リヤナンバープレートフレーム、⑥ナンバープレートを用意し、⑧両面テープを使ってリヤナンバープレートを組み立てる。組み立ての要領は、13号で組み立てたフロント用と同じだが、ナンバープレートフレームには上下があるので、写真を参照して間違えないようにしよう。

54



組み立てたリヤナンバープレートを、ボディ後部に押し込んで取り付ける。

55



13号で組み立てたフロント用のナンバープレートを用意し、フロントマスクの取り付け部に押し込み、5で外したリヤコンパートメントカバーとスペアタイヤを取り付ける。

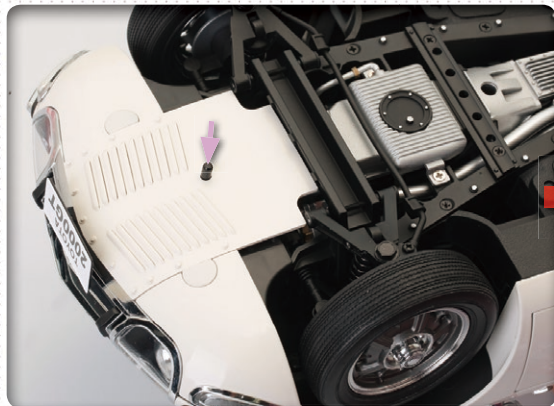
完成



最後に、ボディ各部を仮留めしていたマスキングテープをはがせば、TOYOTA 2000GTの完成だ。完成したモデルのアフターケアだが、直射日光の当たらない場所に飾ろう。プラスチックモデル用のモデリングワックスなどで磨くのも効果的だ。

【ヘッドライトの開閉】

ヘッドライトの開閉は、フロントアンダーカウルプレートから突き出したピンを押すことで行う。ピンを押し込むとヘッドライトが少しだけ起き上がるので、あとは手で引き出す。閉じるときは、ヘッドライトを押し下げればよい。



フロントアンダーカウルプレートから突き出したピンを押し込むことで、ヘッドライトを引き出せる状態になる。

【バックドアの固定】

バックドアが開いた状態で固定するためには、リヤコンパートメントに収納された「バックドアスタンド」を使用する。バックドアスタンドを立て、バックドア裏面のくぼみにスタンド先端をはめ込めば、開いた状態を維持できる。



バックドアの裏面には、スタンドがはまるくぼみがあるので、そこに立てたスタンドの先端を差し込む。

【ステアリング】

モデルの前輪とハンドルは連動しているが、舵角は大きく制限されている。これは動作時のトラブルを回避するための仕様だ。そのため、前輪を左右に動かす場合は直接、前輪を動かすことをお勧めする。ハンドルで前輪の操舵を行いたい場合は前輪を浮かせた状態にし、ハンドルに無理な力を加えないよう注意しながら操作する。また、ハンドルの回る角度は約30度(時計の長針で5分)が上限なので、それ以上回そうとするとパーツが破損する恐れがあるので注意しよう。



【その他】

ボディ表面に傷や汚れが付着した場合は、プラスチックモデル用のコンパウンドを使って軽く研磨しよう。その後にモデリングワックスなどで仕上げ磨きを行えば、かなり目立たなくすることができる。ただし、塗料が薄い部分の研磨は逆効果になる恐れもあるので、自身のスキルに合わせて対処してもらいたい。

[TOYOTA 200GT 提供・使用ビス一覧]

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	BB	CC	DD	EE	FF	GG	HH	II	JJ	KK	LL	MM			
2 提供	5		3																																							
2 使用	-4		-2																																							
3 提供				3	2																																					
3 使用				-2	-1																																					
4 提供		3																																								
4 使用		-2																																								
17 提供					2	4					3																															
17 使用											-2																															
22 提供							2	2																																		
23 使用					-1	-3			-1																																	
24 使用							-1																																			
30 提供							14			5																																
30 使用							-9			-4																																
31 使用							-2																																			
33 提供				2																																						
33 使用				-1			-2																																			
35 提供			3								2	3																														
36 提供														3	9	2																										
36 使用														-2	-2	-1																										
37 使用																																										
39 使用																																										
40 提供																				5	3	5	3																			
40 使用																				-2	-2	-2																				
41 提供							7													5	5																					
41 使用																				-4	-4																					
42 提供																				5						3	5	3														
42 使用							-2														-2			-2	-2																	
43 提供													3																13													
43 使用							-2																																			
44 提供			7																																					3		
44 使用			-2																																					-1		
46 使用			-2																																					-1		
48 使用				-2							-1	-2																														
49 使用							-2																																			
51 提供																											3															
51 使用																											-2															
52 使用																																										
58 提供														3	5													3														
58 使用														-2	-2																											
59 使用																																										
60 使用																																										
61 提供				4			5																																			
61 使用																																										
62 使用				-3			-4																																			
63 提供																																										
63 使用																																										
64 提供															3																											
64 使用			-2												-2	-4																										
65 提供																																										
65 使用																																										
残り合計	1	1	2	2	3	1	1	4	1	1	1	1	1	1	3	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	3	1	2	1	1		

※ビスは1回の提供に付き「1本の予備」が同梱されるため、提供回数分だけビスが加算される。